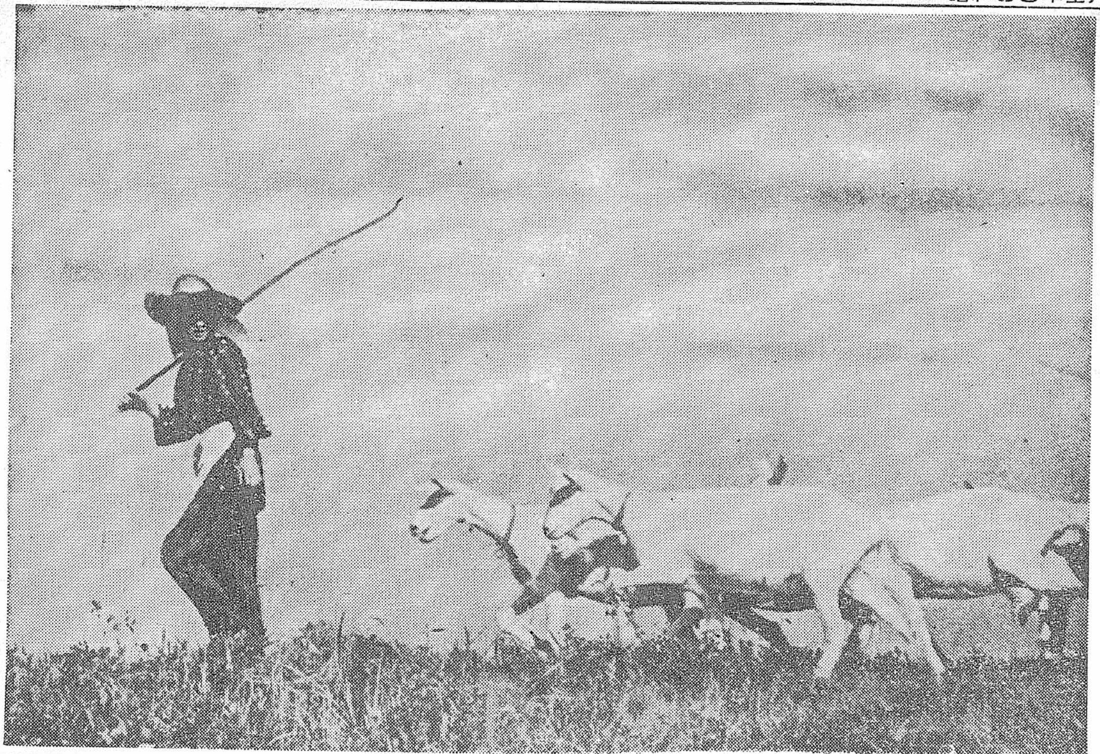


友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽7の10
電話 大塚(94)2801
編集兼発行人 水谷 晋
定価 1部10円

本紙の購読について

本会々員以外の方で、本紙の購読を希望される方は左記料金を添えて直接発行所まで御申込み下さい。

購読料　一カ年　一二〇円
送料　同　五〇円
合計　金一七〇円

政府、炭労両者出席

炭鉱学童救済の催し

本部では来る二月一日（火）午後五時より東京神田一ツ橋の共立講堂で映画と講演の会を開催する。これは前号でも既報した炭鉱の学童救済基金募集のためのものである。

即ち昨年のデフレの影響による炭鉱の不況の結果続出した解雇者、休職者等炭鉱従業員の子弟が学業にもつけないでいる、との現地会員からの訴えを常任幹事会が取上げ、旧臘来東京在住会員からその準備委員を委嘱し具体的方法を検討していたものである。

しかし、現地会員からの情報によると昨年末各方面で行われた炭鉱児童助け合い運動の如きは“焼け石に水”そのもので、もはや強力な政治的施策をまつほかはないということである。そこで同映画会準備委は、映画会の益金による寄付ということよりも、当日政府の担当大臣及び炭鉱労働者側の出席を求めて実際にはどのような生活にあるのか、それに対して政府は如何なる施策でのぞもうとしているかを広く参集の人々に訴えてもらうことにより、同胞の問題としてこうした不幸を救済するための世論を起すことに第一の目的をおくことになつたものである

なお同準備委では既に各方面にこの催しの趣意書を発送し大方の賛同を得ているということである。

本部会員に警告

本会類似名称団体續出で

最近二三の地方において、本会と類似の名称をもつた青年団体の結成が伝えられ、同地区にある会員をはじめ、各方面より本部に問合が寄せられているので、常任幹事会においてもこれを重視、これの取扱について近く対策をたてることになつた。

なおこれについて渡辺事務局長並びに奥田組織部長はそれぞれ次のようにのべている。

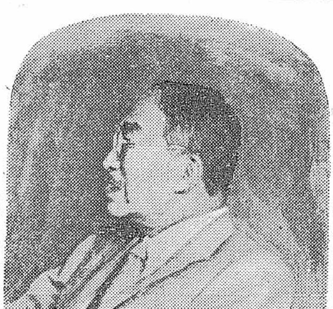
渡辺事務局長談＝本会と同趣意の団体が多く生まれることは、まことにうれしいことで、友愛思想の普及といと本会の目的の一つが全国的に表われてきたものであるが全国単一組織体である本会にあつては、正式な手続をふんでからでないと支部として認めることは出来ない。しかしこの種団体と連携して運動を推進して行くことは勿論大切なことである。

奥田組織部長談＝本会の組織方針は大会において決定している通りであつて幹事会、常任幹事会においても確認され、各地の同志諸君もこれにもとずいて活動しているがこのような問題が表面化したことは、今後一層中央地方の連絡強化を重要視しなければならず合せてオルグの派遣、地方会員の組織訓練をぜひとも行いたい。特にこのようなことになつたところはその地方の特殊事情によつて本会支部として発足することが出来なかつたと思われるので、地方の特殊事情等については十分本部側と打合せそれを一つ一つ解決してから支部の結成にもつて行くようにこれを機会にあらためて要望する。

公明な良識ある行動を

友愛の考え方を実際に示せ

鳩山会長年頭に要望



おめでとう。友愛青年同志会も発足第三年目を迎え君たちの努力で漸くその基礎も固つてきたことは大へん嬉しいことです。新年に当つて、特に会員を始め全国の青年諸君に私の希望するところを述べてみたいと思います。

今年は独立後第三年、敗戦の年からは十年目であります。俗に十年一昔ということをいいますが、この十年の間にわが国が歩んできた道は決して容易なものではなかつたことは諸君も知るとおりであります。占領下から独立国へ、インフレからデフレへ、そしてその間にあつて民主主義、自由主義のはきちがえやゆき過ぎから多くの社会的不安を経験させられてきました。とりわけここ数年間の政治は、ようやく国民の間に健全な根をおろし始めてきた民主主義をかえつて枯らしてしまうようなことがしばしば行われてきました。

私は昨年の始めに“友愛”を通じて抜本的な政治の建直しが必要なことを諸君に述べましたがたまたま、御承知の如く旧ろう、内閣首班に指名され直接その衝に当ることになつたのであります。その際に私は『民主政治にあつては選挙という国民の審判を経ない日本民主党が内閣を組織し、まして過半数にみたぬ衆議院の議席で国政を担当するということは、潜越至極である』ということを率直に認め速やかに総選挙によつて日本民主党として国民の審判を受けることを国民のみなさんに誓つたのであります。このように民主政治というものは公明に行うべきであり、自己の立場を主張するとともに相手を尊重してこそ民主主義は生きてくるのであります。

そのためには自己に対する確固たる自信を持たなければなりません。国家といえども同じであります。私が道義の昂揚を訴えるのも国民がそれによつて独立国日本の自信を取り戻し、そこから自己を尊重するとともに他をも尊重しあう友愛の考え方によつて、世界の国々と平和な国交をつづけてゆきたいと念願するからにほかなりません。

それでは、その中心となるのは誰かといえば、それはむしろ大人ではなく春秋に富む諸君たち青年なのであります。諸君たちが清新溌らつの気をもつて昭々たる天日の下をあゆむかあゆまぬかということこそ独立国日本の将来を決定する大きなカギであるわけです。諸君たちが公明な良識ある行動をもつて友愛の考え方を実際にしめしてくれることを切に切に希望してやみません。

（文責在水谷）

公明選擧運動推進

常任幹事会十八日に具対策討議

衆知の如く本年は衆議院議員並びに地方選挙が重なり、さながら選挙の年となろうとしている。選挙こそわれわれ国民に与えられた参政権を直接行使する唯一の手段であり、民主政治確立をめざす本会としては常に重大な関心を寄せているところであり、先きに学生選挙権問題にからむ自治庁通達徹回運動を行い、また国会乱闘問題を採り上げたこと等、本会独自の広範な政治活動を展開してきたもので、常任幹事会、幹事会においてもその基本線が確認されている。

特に今回の選挙は、鳩山会長もいわれている如く、いままで常規を逸していたかの感をいだかされていたわが国の政治を正常な軌道にのせ、民主政治の範たらんとする機会であり、まことに意義深い選挙であるといえる本会においては、早くよりこれを機会に、選挙の啓蒙運動を通じ民主主義の徹底を期すべきであるとの考えをもつており、具体的運動方法の検討を進めていたが、公明選挙運動を中心として近く運動展開に入ることになつた。そこで本部では来る十八日開催される常任幹事会で正式に決定し、全国各支部並びに各地区に指令する。なお本会は再三言明している通り。政治問題に対する基本線が確認されているのでその点を充分考慮して具体的方法も検討されており常任幹事会の討議もこの問題に集中されるものとみられる。

各界の支援絶大

賛助会制度軌道へ

昨年十月二十四日開催された第二回幹事会において懸案の賛助会員勧請促進案が決議され、以来本部では海野経理部長を担当役員として事務局並びに各地方支部が協力、全国的に呼びかけを行いつつあるが、残年末までに次の方々が入会申込を行なつた。なおそのほかにも多数協力を約されている方もあるので、より広範な呼びかけを今後とも行うことになつている。

賛助会員名（敬称略順不同）

増田博久（東京）山本正一（神奈川）磯林章男（兵庫）北畠吉（東京）宮川三郎（東京）高嶋象山（東京）田辺直文（東京）南条徳男（東京）稲田円助（東京）安田朝信（東京）池田仲治郎（東京）町田七郎（東京）上条貞（東京）石島三郎（東京）浦部武夫（東京）四宮久吉（東京）川島梯一（東京）藤井豊吉（東京）馬越旺輔（東京）高橋達雄（東京）河越恭平（東京）田中久雄（三重）稲谷磯平（東京）小山良雄（東京）土居利道（大阪）高木二郎（大阪）藤井俊二（大阪）大森通孝（大阪）山内寛（大阪）堀川定男（兵庫）小野弘（静岡）

以上が本部に直接申込まれた方である。なお支部扱のものは次の方である。

成木清二（軽井沢）加藤（大阪）

直言

▼一九五五年、新しい年を迎えて会員の皆様の健康と活躍を心から祈る。本会は、年末、年始の虚礼を一切廃止し、年賀状一本発送しなかつた。いろいろ昨年中も会のために御協力願つた方にだけでも年賀状をという事務局内部の声はあつたけれども、やはり無駄な出費をさけ、少しでも会の発展に廻したい、という意見が圧倒的であつた。こうしたことは極めてよろこばしいことだと思う▼国会でも、そんなことが“今や失業を予定されている議員”さん達が決めたそうだが眼前に選挙を控えては、杓子定規にもしていられないのが人情らしく大部分の議員がこのトリキメを破つた。自分で決めて自分で破つていては、まず議員さん達の民主主義はお先きまつくらというもの▼ともあれ、いよいよ選挙によつて諸事が始められようとしている。衆議院議員の総選挙、地方選挙。国民にとつて都道府県民（或いは市区町村民）にとつて大事な一票。この一票はアダやオロソカには使いえな。心すべきことにこそである。新しい年、来るべき良き日への祈りをこめて投票すべきことはいうまでもない▼某誌によれば『戦後最大の政変』が鳩山内閣の誕生と吉田内閣の総辞職だということだ。この表現はともかくとしてこれまで『勝手に決められた』政治がこの一票で、われわれの意志を反映させることができるのだ▼『どうせ、なるようにしかならない』などと投票前に失望することこそ民主主義をあやまるもと。今からじつくりと腰をすえて考えておくことである。“一年の計は元旦にあり”

謹賀新年

私たちは皆様の御理解ある御協力によつて、昨年は全國各地に大きな発展をとげ、会員も四千名を数えここに発足第三年目を迎えることができました。本年もなお一層の御指導と御鞭達をお願い致します。なお平素御世話になりながら御無沙汰を致しております各位には紙上甚だ失礼ながらこれを以て賀状にかえさせていただきます。

昭和三十年一月

友愛青年同志会本部

何よりも就職の斡旋を

上官が部下に殘留を強制

中共引揚者曰く『祖国の風はツメタシ』

旧ろう十八日本会恒例の歳末助け合い運動の一環として、心ばかりの慰問品を携え東京品川の引揚者一時寮常盤寮（東京都管理）に中共からの引揚者を慰問、約二時間にわたり種々懇談した。当日の出席は主として中共より戦犯者として抑留後釈放され第八次引揚船（昨年九月）で帰国された人々であるその懇談の際、最も強くこれらの人々から要望されたことは、就職のあっせんに政府および民間で協力してもらいたいこと及び戦犯帰国者の身分が不確定であるから一般引揚者と別に復員手続を完了してもらいたいことの二点であった。

山田太郎さんは、ようやく個人商店に職を得て通勤三日目に奥さんが病気となったため、一日欠勤したところ、翌日からもうこないでよいといわれたという。また斎藤美男さん[illegible]十歳の女性で中共時代にミシン縫工をしていたのでこの方面で職を得たいとツテを求めて探した結果、採用と決ったが中共帰りということで不採用となってしまったそうである。しかもこういうことが三度繰返された今ではもう職を求める気がしなくなったといっている。

こうした生活と直接つながる深刻な問題だけに、中共からの引揚者たちは、中国では働きざかりの男女が職を得られないことはないのに故国日本は何となく肌にあたる風がつめたいと感じているようである。またこうしたことが原因で手放し中共礼讃もでてくるのであろう。事実、当日の懇談会出席者たちからは中共にいて困った、という話はついに聞くことができなかったこの人たちはいにしえの眠れる獅子と形容された中国が眼をさまし、現に堂々と大地が濶歩しているさまを眼でとらえてきた人たちであり、その中で中国人と生活を共にしてきた人たちなのだから、しかも戦前、戦中の中国から開放後の中国を見てきた人たちだから、男女同権の職場、妊産婦のための保護施設、公開される職場恋愛、政府で保証してくれる農産物の価格、日本の書物は何でも読めた日本人戦犯等々本当の話なのだ、それだけに祖国の風のつめたさは一層身にしみる。

引揚者たちは、どんな汚い仕事でもやります、引揚寮に子供たちの習字、図画を貼っておいてくれのありがたい、しかし一番嬉しいのは職の斡旋だ、と口をそろえて語っている前に述べた〇〇さんの場合なぞは使用者の思やりを求めたところ。またこの人たちは中共貿易を大いにやってもらいたい、それのよって日本の中小企業が盛んになるにではないかといっていた。

第八次興安丸引揚者供述書というものがある。これは戦犯帰国者たちは終戦当時軍（日本軍）の上級者たちの命令で残留させられたこと、終戦後上級者は部隊を勝手に指揮し中共軍と戦わしめたこと、帰国の機会がありながら脅迫、暴行等をもって日本軍上級者（主として部隊長以上）が兵隊の自由意志をふみにじっていたことなどが詳細にかかれてあり、われわれは一般引揚者とは違い当時の軍編成上の上級者から強制的に残留させられたのであるから復員手当等についても考慮してもらいたい。と主張している。

友愛と博愛　そして宗教

青沼爽吉

われわれが〃友愛〃といってもそれから受けとるところのイメージは、各人によってそれぞれ異るであろう。それもまた無理からぬことである。この友愛思想は、近年カレルギー氏によって提唱されたものであり、まだ明確なものになっていない。従って世間一般では〃友愛〃というとすぐ従来あっただけの単なるフレンドシップ的なものか、博愛主義的な精神運動と解しているようであるが、われわれの友愛思想は決してそれと同じものではない。従来のものは、個個の人々に隣人愛的な倫理観をすすめ道徳思潮を高めようとしていたにすぎない。それに対してわれわれの唱えるところのものは、人と人との間に必要なその友愛の精神をより広く対社会的に生かし、政治的に実践の段階までもってゆくことを目的としている。これを更に具体的にいえば、この友愛思想を通じて法的・政治的に不正をなくし経済的にはすべての人々が満たされるような社会を作り上げてゆこうとする運動なのである。

然してこの運動は始められてから日も浅いので、基礎的にしっかりしていない個所もあるし、また色々誤解を受けることもあるけれども現在のような混乱した社会に満足せず、真に世相を憂うる人たちにはきっと理解される時がくるに違いない。

さて次に友愛にとってもう一つはっきりさせておかなければならないのは、宗教との差異である。宗教もやはり現代の社会に対して鋭い批判を加え、愛とか慈悲というような理念の下に世界を正しし人類を救済しようとするものである。ところが宗教ではその手段を人の力によろうとはせず、すべてを神の手にゆだねている。即ち、地上の悪を一掃し神の国を地上に到来させるのは、神の御力によるとしている。そして現代の社会に内在する数々の不正や罪悪を、人間に対する天の審判の秩序とみなして傍観しているばかりか、かえってそのような現世的な苦難を甘受することを善としている傾向さえある。そのような宗教の中にあって、キリスト教左ばかなり現在の社会に対して積極的な関心を示している。過日、桑田秀延氏は朝日新聞紙上に『原水爆とキリスト教』という興味ある一文を書かれた。その中で『……政治に対するキリスト教会の活動は結局精神的なものを出ないのであって、正し政治のために祈りまた宗教的見地から実際問題について意見を開陳して世の人々殊に政治家に訴えることにつきる……』と述べておられるが、これはキリスト者としてまことにもっともな発言であると思う。何となれば教会本来の使命は福音の伝道にあるからである。同じように宗教家が何か社会的な事業を行う場合、それはあくまでも彼が信ずる神或いは仏を中心としての奉仕にすぎないのであってもしもそれがために、本来の使命がおろそかにされたり、そこなわれるようなことがあっては、その事業の効果そのものは全く無意味なのである。この意味で宗教が直接社会的な実際問題にあまり入り込むことは警戒する必要があると考えてよいであろう。

ここに友愛と宗教との差異が明らかにされる。未来とか彼岸とかにおけることは宗教にまかせるとして、われわれは現在ただいま、足を踏みしめて立っているこの社会において、どうすれば多くの人々がより良く暮してゆくことができるかを真剣に考え、実践してゆくことを第一の目的としている。

今の社会体制がどうしても駄目であるなら、それを改めねばならないだろう。われわれはその方法として友愛革命を唱えるのである勿論、革命といっても友愛の本旨から考えてわかる如く、暴力的な手段をとらないということは多言を要しないであろう。（筆者は静岡県沼津地区会員＝投稿）

英國選擧の歴史

選挙粛正法の成立

わが国では来るべき選挙に対して政府、民間の双方から公明選挙が叫ばれている。しかし議会政治の模範と自他ともに認められている英国においても選挙は腐敗してしていたのである。それが一八八三年有名な〃腐敗及不法行為防止法〃が制定されてから漸次今日の如き模範議会政治に育てあげられていったのである。

十八世紀の英国選挙は特定の候補者または関係者が当選の目的で一定の選挙区を買取したり、譲渡したりすることが行われていたという。そしてその斡旋にいわゆる選挙ブローカーが活躍していたということである。特にジョージ三世の治下ではこれが多くあたかも印度等植民地の成金がこの傾向を助長したという。

そして、始めは選挙区そのものが貴族等支配階級の封建的財産の性質を有していたため、選挙区そのものの売買にとどまっていたのが農業革命、商業革命の進行につれ一般市民も有権者である限り（当時は制限選挙）は投票を金銭で売買することが当然とされるにいたった。そして個人的買収の成否如何が当落にひびくようになった、ということである。

こうしたことを裏書する事実として、有名な黒奴解放論者であるウイルバーフォースは『長い習慣で有権者の一票は二ギニー激票投票できるプランパーには四ギニー、自由民のロンドンへの旅費として一人十ポンド支払わねばならなかった』と書いている。彼は博愛政治家といわれる程の優秀善良な政治家であったが、彼の如きにおいてさえこの時の選挙では九千ポンド近くをついやしたということである物価の低い当時を思えばこれは今わが国でいわれる五当三落をはるかに上廻る支出である。

かって内務省の委嘱で英国選挙制度を調査した蠟山政道氏らは当時のイギリス社会とその政治についてこう結論する。

要するに一八三二年以前の英国の選挙事情は、金銭買収と饗応と暴行とによって支配されていた。そしてこの腐敗手段を最も有効に使用した家族地主階級が選挙に最も多く当選し長く英国議会を従って政治を支配しきたった。市民の風習、気力及び地位もこれらの事態を維持する有力な原因で、人々は個人的に独立に公正な選挙などは不可能であった。そして人民のこうした悪習を利用し英国を支配した家族階級が有為有能であったことが議会制度維持存続の大半の原因であった、と。

そして一六九六年に制定されながら有名無実の存在であった饗應法の不備は一八三二年の選挙法で選挙区の再配分、選挙権の制限的拡張に主眼点をおき選挙度は再編成された。だがここにも金銭手段による選手不正で腐敗行為に対する考慮がなかったのである。一八五四年は不正選挙取締法が一部議員の良心的行動により通過し一八七二年には投票法が秘密投票を実施した。しかし一八八〇年の選挙では依然として多く腐敗事実があり、特別調査委員会が設けられその調査の結果徹底的改革の必要が認められここに有名な一八八三の『腐敗及び不正行為法』が制定されることになったのである。

青学懇メンバー紹介

前号では　一般青年団体又は学生以外の人の運営する青学懇メンバーを紹介したが　今回は土曜会及私学連という二つの学生団体を紹介する

健全なる學生運動

地道に歩む私学連

私学連

全国私学学生自治会連盟略称〃私学連〃は昭和二十三年にその発足をみた発足の経過がそのまま私学連の性格及びその歩み方をよく示している。

学内に学生自治会が結成され自治意識が非常に高まった時代であった。この時全国大学の自治会を統合し強力な全国組織を結成しようとして、東大、京大、早大等が中心となり豊橋の愛知大学にその準備会と結成大会をもつ運びになった。そして主催者側は全国大学の強い統一を計るために、代議員制をとり各学生数の比に応じて代議員を選び、そのもとで全国大学の自治会をまとめてゆこうとした。これに対して主として関西側の同志社大、立命大、関西大、関学大関東側の慶大、日大東洋大等が反対し、私学にはそれぞれ建学の精神があり独立自由の伝統があるのでそれを無視した画一化に反対、〃全学連〃と時を同じくして私学連の発足をみたのである。

私学連の結成の趣旨を流れる二本の大きな線は、一つは私学の独自性の確立と、私学の発展に寄与することで、今一つは健全なる学生運動の展開にあった。その後全学連は教育基本法反対破防法反対等その主力を対外的問題に向け、時としては非合法的な活動にもふれるような事態をおこし警官との対立もしばしばであった。

これに反して私学連は、学生健康保険、奨学生資金問題、私学国庫補助問題などと地道に取り組んで来たが、問題が広範なために全国私学の結束がなくてはその解結がむづかしい立場に立たされてきたのである。最初私学連は当の趣旨にそって活動を開始したが、全学連の活動が余りにも激しく厳しいのでその批判団体、対立団体に終始するような決果をもたらした。

しかし二十六年頃より漸次、私学連独自の運動にたちかえり、まず学内問題の解決❶授業料の値上げ反対❷学内施設の充実❸アルバイト紹介を含む厚生施設の拡充その他奨学金問題等々に手を染め、更にその上に横たわる私学研究助成金の獲得、私学国庫貸付金の獲得、奨学生の官公私差別撤廃およびその増額、学生サナトリウムの建設、学生健康保険の樹立、就職対策、定員制の確保等々大きな問題と取りくみ、僅かづつではあるが成果をあげつつ歩んできた。更に昨年十二月は全国私学総蹶起大会を開催し、北は東北から南は九州に至るまでの私学学生代表三十八校が参集、従来にない大きな成果をあげ問題の解決にあたろうとしている。現在参加校十七校約十六万の組織をもち、本部は日本大学にある。

卒業後の活動に期待

各部門にわたる学生研究団体

土曜会

土曜会は昭和二十五年六月、朝鮮動乱勃発直前、東大、中央、早大、慶応の学生有志によって結成された研究団体である。結成趣旨によれば『政治、経済、文化、社会各部門にわたっての真摯な研究活動を通じて、将来における社会改革および日本再建のための実践に備えて、同志的人格的結合を強化すべく、切磋琢磨する』といっている。

当時の情勢は、過激な政治的極左運動が盛んであったが、極左学生運動に対抗して行われた、所謂反共学生運動の方式に対する反省からこの土曜会が生れた。

彼らはその事実をこう反省する、『従来の政治的実践を旨とする反共学生運動は、ともすると半職業的学生政治家の趣味的な活動欲や利権欲によって推進されて、原理的研究や当面の諸問題の具体的研究がおろそかにされ勝ちとなり、卒業して学生の身分を離れると、雲散霧消して過去の政治的学生運動は単なるエネルギーと貴重な時間の空費以外の何ものでもないという結果に終る欠陥を蔵していたこれは、基本的目的樹立のための理念的研究を怠り、あくまで将来に備えての手段にすぎない学生運動を目的そのものと誤解し、実体的組織の結成を忘れて無目的の政治運動に錯覚的な自己満足を感じていた当然の帰結である』またいわゆるキャンデイボーイといわれているアプレ学生などに対しても『安易な現実逃避の享楽に耽溺する』と批判し、ガリ勉居士を『利己主義的な明哲保身、時代錯誤的な立身出世のための勉強にのみ専念している無気力な学生群』と断じている。

では土曜会はどんなことをしているのだろうか。結成以来の活動状況を簡単に紹介すると、

（イ）毎週一回の研究会

（ロ）講演会

（ハ）機関誌『時代』の刊行

（ニ）学園の秩序と平和防衛のための必要最少限度の政治実践活動等地味ではあるが着実な活動を行っている。また特に（ニ）に就いては『学園における実践活動は、我々の第一義的な目的でかなかったが、過去数年間、各大学で活発に行われた暴力的な左翼学生運動が、学園の平和を脅かし、自治権の濫用によって真の『学園自治』『学生の基本権』を侵犯するような事件を企図した際には、土曜会員は或は東大で、また早大でこれに対抗するべく必要最少限度の実践活動を敢えて行った。昭和二十五年十月の駒場試験ボイコット事件に対する反対斗争、昭和二十七年の五月早大学生葬強行事件に際しての行動などはこの代表的実列である』とのべている。

なお、土曜会の基本的特色は、学校を卒業後、社会人となった会員が依然として正会員であることであり、会自身『むしろその果すべき社会的役割の故に、より重要な会員である』とのべているのは、今までの学生団体の在り方からみれば、注目に値することである。

本邦随一の高位炭

北海道炭砿汽船

謹賀新年

産業運輸の原動力！

丸善石油

ツバメ印の石油

取締役社長・和田完二

本社・大阪・支社・東京

カギは國民の政治的自覺

▼一月廿一再開国会では鳩山首相の施政方針演説について各党の代表質問が予定されている。この質▲

▼問終了後国会は解散される段取りでその時期は大体廿四、五日頃とみられる。一昨年の四月十九日▲

▼の総選挙以来、一年九カ月目。某誌のいう戦後最大の政変である吉田ワンマンの退陣と鳩山内閣の▲

▼成立。そして〝公明選挙〟が一躍脚光をあびて唱えられだした。汚職議員、また乱闘国会と国民か▲

▼らさわがれてから国会の権威はいちじるしく地におちた感がある。主権在民のわが国で公明選挙が▲

▼声を大にして叫ばれるのは実はおかしなことだが、今度の選挙に失敗することは民主主義を国民▲

▼の側から返上したことになる。〝公明選挙〟とは何か、民主政治に於ける選挙はどうあるべきか　▲

公明選挙とはどんなことか

（公）明選挙とはどんなことか？昭和二十七年十二月に財団法人として発足した公明選挙連盟できいてみる。同連盟常務理事安積得也氏は……

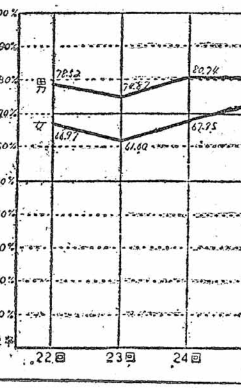
われわれが国の主権者としての責任を痛感し、政治に対する良識を保持し、公共生活の福利と正義に立脚して候補者を選挙すること。一口にいえば買収されたり義理にとらわれたりすることなく自分の良心に従って投票することです。しかしそれには国民の一人一人が正しい政治知識、明確な判断を常に養っていなければならない。そこで公明選挙連盟は常時持続的に公明政治教育運動を展開していますね……と語っている。

この公明選挙連盟では昨年七月、この目的を達成するために〝公明政治教育運動展開方針〟というものの決定しこれを公けにした。これは同年二月の同連盟理事会で決定されたものである。それによると基本方針として……公明選挙、政治浄化の具体的実現を目的としそのため公明政治教育運動として常時これを展開する、その民間的推進役を連盟が勤めるかその主役にはならず協力的立場背景的立場に立つ、そして不偏不党、無色透明、超党派的なものとし、政策的思想的にも超越中立のものでなければならないことを決めている。

そして運動の対象は国民一般であるが重点的に婦人層、青年層、勤労層、短識層（特に教職員層）を対象としていることは注目すべきことである。結局、既成の大小ボス的勢力や政党人、政党関係人などを再教育するより、婦人層、青年層といった若さに民主政治の本来をうえつけようとすることは、わが国の国民的政治水準からいって当然のことであるが、それによる考え方を正しい道にのせようとするものである。

○○○○○○ 漸次高まる婦人の政治関心 ○○○○○○

（投）票成績はどうであったろうか。最高山形県八七・四二％。最低は大阪府の六〇・〇二％これはこの選挙の六カ月前に行われた選挙の投票率と全く同じであった。また男女別にみると男は七八・三五％女は七〇・四四％で全有権者の五割強を占める女の投票率の低さ、いいかえれば婦人の政治的関心の低さがこうした結果になっている。しかし回を重ねるごとに婦人の政治的関心はようやく高まりつつある。【図は戦後に於ける投票率推移】



地方青年の自覚が急務

（前）回の選挙、即ち昭和二十八年四月十九日行われた衆議院議員の第二十六回総選挙はどんな実態であったのだろうか。われわれ公明選挙を行うためにも種々参考になると思われるのでこれを自治庁選挙部の調査からふりかえってみよう。

この選挙はどのような経過手続をたどって行われたのであろうか。この年三月十四日第〇次吉田内閣は衆議院における内閣不信任案が成立すると政府は即日衆議院の解散を断行。その結果三月二十四日の詔書で四月十九日衆議院の総選挙を行うべきことが公示されたのである。この時同時に昭和二十二年の第一回通常選挙で選出されていた参議院の六年議員の任期が同年五月二日で切れるので、四月二十四日に選挙すべき公示も行われたがここでは衆議院についてのみのべてみる。

まず選挙せられるべき衆議院議員の定数であるが、当時奄美諸島がわが国に返還されていなかったので四百六十六名であった。これはその後同諸島の返還で一名増員され現在は四百六十七名である。有権者の数は選挙当日において

男　二三、四八〇、五九〇
女　二四、六〇九、五七七
計　四七、〇九〇、一六七

となっていた。そしてその内訳は都市が男九百五十九万六千余、女一千三十八万余計一千九百九十七万六千三百六十九、郡部が男一千二百八十八万四千余、女一千四百二十二万九千余計二千七百十一万三千七百九十八となっており、男は女より少く都市の有権者は郡部より少い。これは今度の有権者分布では女が男より多いことは変らないだろうが都市部の有権者数は昨年四月以来の新市誕生で多少増加する見込みである。しかしこれでも分る通り婦人の票、農山村漁村の票の方が多いということは選挙の立候補者には勿論であろうが、選挙による民主政治を考えたとき、国民の政治水準が大きい選挙を通して政治の上にひびいてくるのが分る。従って都市よりもむしろ郡部におけるわれわれ青年の政治的自覚こそ正しい選挙、いわゆる公明選挙そして公明政治への早道だということになろう。

違反のトップ買収行為

（違）反はどうであったか公明選挙が行われていれば選挙違反などは考えられない。現在の段階では来るべき選挙で選挙違反が絶滅したら公明選挙の目標は達せられたといってもよいのではなかろうか。

一昨年四月の総選挙では違反検挙は件数にして九千件余人員にして一万三千人に達している。その内訳をみると買収、利害誘導が約七千五百件一万人余で圧倒的に多く、次が戸別訪問約八百件一千人余、その他文書違反二二八等で、その他選挙の自由妨害、不正投票、投票の偽造、飲食物の提供等が主なる違反罪種である。

買収による違反が多いということは、そしてこの種行為がそのアトを断たないというわが国の現状は民主政治をわれわれの手でブレーキをかけているようなものであろう。こうしたところにも純粋な青年男女の正しい良識ある政治的自覚が切に望まれるのである。

当り前のことだ

○○○○○○○○ 阿部眞之助氏

公明選挙、それはあたりまえのことだよ。本来からいえば、することがおかしなくらいだ。これは君人が道を歩くのと同じことなんだよ。公明選挙は代議士のためではなくて国民自身のためなんだ。選挙を正しくすることが国民のためだということが実はなかなか判りにくいんだね。それは地方などでよくあることなんだが、代議士が自分の選挙区で橋をかけたり学校を建てたり、道路をなおすとか、眼にみえたことをするとあの先生はこうだ、という批判の対象になる。選挙民が利害のよくわかるものについてはとても敏感なんだね。ところが、選挙法を改正するとかいったことについては、いくら代議士が努力を払っても選挙民はこれを認めない。だから代議士も眼にみえることしかやらなくなってしまう。こうしたことは一般大衆が選挙の実体を知らない、ということなんだ。

公明選挙を政府が音頭をとってやらなければならんということは実はナサケない話だよ。民主政治というのは本来からいえば民衆が政府をリードしてゆかなければ意味がない。だからこうしたことは民衆の中から起ってきてはじめて価値のあるものなのだが、現在の日本ではそれは無理だ。民主主義に対する国民の理解の深さというものがまだまだ浅いのだから……。政府が音頭をとっても〝公明選挙〟は大いに推進した方がよい。その中心に青年が立つのが本当なんだが、日本の青年団はそれがどうもできないようだね。だが青年が政治に参加することは良いと思う。若い者は大いに出るべきだ。しかし、カラ理念ばかりふりまわしているような人が出てこられたんでは困るよ。政治というものは生きている。マツタナしのものなんだ。今度の総選挙にも青年たちは政治論議を大いにふるいおこして参加することを望むね。だが青年というものは理論ばかりが先きにくるだからどうしても実際生活とはかけ離れてしまう。青年よ立てといってもこの種の青年がいくら出てきてくれても困るんだ。そうだろう君。君たちの友愛青年同志会でもそういう人たちがいたらどんどん政治に参加するのがいいんだ。しかし今いったようなカラ理論ばかりふりまわす人は、もうすこし実際に生活とか政治を体験してみてからにしてもらいたい。私は青年が政治に参加することは大いに賛成だそうして、政界に清新はつらいの気を吹き込む必要がある。

〝選擧民の反省から〟

○○○○○○○○ 山浦貫一氏

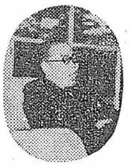
公明選挙大いにやるべしだ。そもそも公明選挙の由来を話すとだ、この名付親は私なんだ。というのは、昭和二十四年だったから牧野良三氏が委員長で全国選挙管理委員会の委員を私がしていたときだ選挙粛正の話がでた。選挙粛正なんて言葉は面白くない、何かもっと良いのがないかということになったとき、私がヒョッと公明選挙という言葉を思いついた。これは何から思いついたというと鳩山総理が昔文部大臣当時しきりにフエアプレイの精神ということをいっていた。私はそれから思いついたわけなんだ。だから鳩山一郎と公明選挙はきってもきれない、ということだ。そしてその名付親が私ということになる。

ところでだ、この公明選挙の歴史なんだが、昭和十年岡田内閣の時、内務大臣田沢義輔が音頭をとって強力な粛正をやったわけだ。しかしこれは失敗した。というのは結局政府が強力にやることだから取締の強化ということになってしまったからだ。粛正これでは意味がない。選挙公明選挙といっても、これは大衆の政治感覚に問題がある。大体近頃のジャーナリズムなどが代議士の汚職、議会の腐敗ということをさかんにいっているが、これは天にツバするものだ。何故かといって、民主政治のもとでは国民に政治の主権がある。そして選挙権を行使するものは主権者たる国民なんだ。その結果が悪いということは投票した者にも責任がある。新聞なんかでは、やたらに政治や代議士をケナすことをもって進歩的だというんだ。ケナしている者も選挙を通じて政治にあずかっている。これを忘れたら民主政治なんてものはなくていいんだ。

公明選挙とは簡単なことだ。選挙にあたって自分の良心にしたがって投票する。ただこれだけのことだ。買収されたり利権にとられたりすることなく、ひたすら良心に従う、これが公明選挙の始めで終りだよ。だからさつきもいったが、これは大衆の政治感覚の問題になってくるんだ。次に人を選ぶか党を選ぶかという点なんだが、これは衆議院議員の選挙は第一に党第二に人なんだ。まず党を選ぶだということは党の政策をよく理解検討する。これによって投票が実際に生きてくる。だが参院、地方選挙はまず人を選ぶべきだね。参院は第二院の性格からいって党で動くことはよくない。これが党利党略で動いては第二院としての性格がなくなってしまう代議士が当選後当自分の所属政党を変更するということは選挙民の付託があるのだからこれは政治悪だ。こういうことを選挙民が許しているということがそもそもまちがいなんだ。結局公明選挙ということは選挙民自身が反省することから出発するものだ。

選擧應援は大売出

○○○○○○○○ 古谷綱武氏



公明選挙は、私は松岡洋子さんの意見と同じです。（註＝昨年十二月二十五日付朝日新聞『きのうきょう』欄掲載のもの）それとは話がずれるかもしれませんが、代議士や選挙について日ごろ感じていることをいわせてもらうと、まず第一に政治家は劣等感というのか卑くつ感といったらよいのか、とにかくそんなものを持っているんじゃないかと思うんです。それは、選挙が近ずいてくると必ずいろんな代議士の方から文化講演をしてくれという依頼がくるんです。その時きまって「この講演は〇〇代議士の政治生活とは別な純粋に文化的なものです」と断ってくれという注文がつくんです。私はなにもそう神経質に政治と文化を区別しなくてもよいと思うんです。そういうふうにいちいち断らせることが〇〇代議士の[illegible]よいのかもしれませんが、これは私は卑くつ感というか劣等感だと思うんです。政治が文化の下にあるんだというような[illegible]っているんじゃないですか。それから地方の代議士が自分の選挙区の青年たちを引立てるためか、または自分の地盤のためかわかりませんが、安直な就職の世話なんかしてやっていますね。あれは地方の青年を結果としてスポイルするんじゃないかと思います。地方青年の自主性というものがなくなってしまうんです。あれで政治が良くなるということは一寸望めないような気がします。

まあ、こうしたことの他に私が是非実行してもらいたいのは、選挙応援のあの物々しさ、さわがしさをやめてもらいたいということです。あれはまるで[illegible]の大売出し風景ですよ。あれだけはやめてもらいたいですね。あんなにさわがれては投票しようなんて気がおきません。婦人層ですか？そうですね、都会と地方とでは違うでしょうけれども、また一つの選挙区の候補者の当落を左右するまでにはならないでしようが、とにかく婦人層の投票が今度の選挙にははっきりあらわれてくるんじゃないかと考えられますね。また進歩的な人たちに婦人層の票が集ってくるということがいえるんでも都会ではいえるんじゃないですか。

しかし、なんですね。都会と地方ではやはり、おもむきが違うでしよう。私は政府が公明選挙につかう一億五千万円を代議士に一切無用に分配して選挙運動を一切禁止した方が良いということは、現在の代議士たちの選挙運動はチツトも選挙民の判断の参考にならないと思うからです。

葵瓦工業株式会社
取締役社長　深津恒雄
緑色・青褐色
銀色・赤褐色
各種製造販賣
三州屋根瓦
本社　東京都文京区白山御殿町127
電話　小石川（92）6704・7820
工場　愛知県碧海郡高浜町高浜
電話　高浜　258・71
※御一報次第社員参上致します

謹賀新年

輸出・輸入
株式会社　太陽商会
インドネシヤ・ナビゲーション・カンパニー代理店
本社　東京都千代田区神田東松下町3
電話　茅場町（66）8480・7268
出張所　大阪市西区土佐堀通1～5（肥後橋ビル）
電話　土佐堀（44）0035～8

常任幹事大いに語る

盛んな我田引水？

だが……………

ここに紹介するのは友愛青年同志会常任幹事が新春の一日を新年会をかねて集つたときの座談から集録したものである。常任幹事が日頃考えていること友愛のことは勿論政治、経済、文化等にわたつてその薀蓄をかたむけた放談も交えている。まだ一面識もない多くの会員のみなさんが、本部の人間が一体どんなことを考えているのかと多少でも知つてもらえればと思つてあえて掲載する次第である。題して『常任幹事大いに語る』

水谷 今日はこうして常任幹事が八人そろつて集まれたのだから一つ『友愛青年同志会常任幹事大いに語る』という放談会をやりましよう。まあ最初は堅いところで昨年の大会のことなどから……

奥田 正直なところ、当時の情勢では大会を開くのは無理だと思つていた。創立以来満一年を経ていたけれど各地の支部の情況を考えると大会は無理だとしか結論できなかつたんだ。

海野 予算面からいつてもあの大会予算を会長のところへ持つていつたら、会長曰く『書生の空論だよ』といわれてネ

水谷 うん、そうだ。あの時はいささかガツカリしたよ……

奥田 しかし結果としては成功だつたがネ……。あの時に結集されたものを除くと去年は本会としては他に大きなことはどうだろう？

北川 まあ第一回大会だけ、ということも見方によれば受けとれるけどその後の地方の発展ということもあるんじゃないか。

海野 とにかくあの大会を成功させたということがそれからのすべてに好影響を与えていたといえるだろう。実績をあげなければなんにもならないからネ。例えば歳末助け合いのように小さなことでも着実に実行してゆく手をつけられるものから徐々に実績をつめあげてゆく、それが理想に到達する一番の近道じゃないか……。

深津 大会を会員自身としてみるとその影響は小さいかもしれない。しかしあの大会は、発展途上にある本会としては表向きの効果というものと並行していかなければならないから、その目的をどこにおくかということになつてくるでしようが……。

海野 成果は大いに上つていると思うんです。全国の代表がとにかく集つて、また帰つていつたということは見逃せないんじゃないですか。種子を蒔くという意味…。

深津 そういう意味も無論認めないわけにはゆかないですが、大会の予算的無理が一年間も残つているということは、現実の問題として困ると思うんだが…。

海野 確かにそうだ。そのための借入金が昨年末までにかたずかないということは、三十年度の大会を考慮しなければならない。勿論これは予算措置の上からの話だが…

渡辺 その意味からいつても賛助会制度をこの際確立する必要があるんだ、賛助会員になつてもらう人につい世間は政治的な目でみるのでこの制の確立といつても相当むずかしいと思うがね

水谷 今年の大会には、だから、賛助会に大いに協力してもらえる体制を今からととのえておかなければならないんだ。

深津 それと同時に今後の会員増加策の線もそこからでてくると思うね。

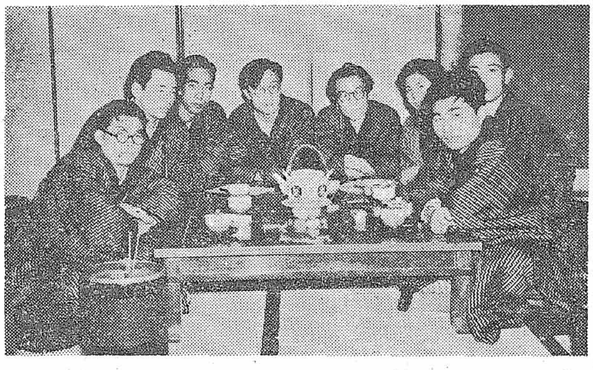
海野 賛助会員の顔ぶれで政治的色彩をおびているようにみられることは困ることなんだ……

水谷 ボクは大会の収獲をこう考えている、一番大きな収獲は常任幹事の結束が固められたこと友愛に対する考え方が常任幹事の間で統一的になつたこと、いわゆる同志的結合ネ、これが実ばあの大会の最高の収獲で、すべての原動力となつているんだと……。

渡辺 それに本会の性格が結成後一カ年の間にだんだんと明確になりそれが大会の決定として打出されたということだ。

深津 今の水谷君の同志的結合が幹事会に、そして会員のすべてに広がつて同志的結合体に前進するのが本当だし、現に幹事会はそういう空気がきざしてきていた。

水谷 どうも大会は自画自讃が多いネ（笑声）



写真は同日大いに語る常任幹事の面々＝撮影は中村勇一事務局員

向つて左から北川登、川手正一郎、奥田吉郎、深津栄一、水谷普、牧野民子、渡辺昇、海野照雄の八常任幹事

＝出席者紹介＝

北川登（情報宣伝部長企画部長）

川手正一郎（学生対策部長）

奥田吉郎（地方対策部長組織部長）

深津栄一（中教指導部長国際部長）

水谷普（文化部長編集局長）

牧野民子（婦人対策部長）

渡辺昇（事務局長総務部長）

海野照雄（経理部長）

政治と憲法と自衛

水谷 再軍備論を一つやりましよ……友愛との関連において…

川手 大会の時に、また地方へいつたときなどよくきかれるんですよ、再軍備と憲法の問題も本会としては重要な問題ですから

深津 ボクはこの問題は会員にアンケートすべきだと思うんだ。

北川 再軍備に関連して憲法改正論議が盛んだが、その焦点を分類すると、自衛体制を中心とする第九条の改正論議と制定以来六年間における憲法の運営が実際上の問題との対決から生じた不備の是正を明確にしようとするものとの二つに分けられる。

深津 本会の場合綱領から自衛ということについてはきまつていると思うんだ。

奥田 結論はでているとしてもそれで会の態度を決定してよいかどうかということです。

渡辺 この問題が政治問題だからという理由で当面の対決を避ける必要はないと思う。

深津 しかし本会が憲法改正斗争というようなことはできませんよ。また再軍備促進を積極的に打出すとしたら会の本質をあやまつているものだと思う。

牧野 現在入会してくる人たちは友愛思想、友愛革命に共鳴して入つてくる人たちだから会長の政治的立場を特に重視しているとは思えないんですけど……

海野 しかし友愛思想を重点に理解して入つた人というのは少いと思うんすよ。現にわれわれ自身もまだ研究の途上だ。友愛思想にもともとカレルギーの思想であり、これをわれわれが日本化してゆくべきだ、がその友愛思想はカレルギーの『自由と人生』にもある通り、全体主義との対決、というよりも思想防衛ついで自衛体制についても説いている。従つて綱領で本会が友愛思想の普及をうたつてあるならば、当然思想防衛、自衛体制もその中にふくまれているわけだ。

牧野 友愛思想が政治的実体に対処せずにそのまますまされていくわけでもないし、またそれでは同志会の存在の意義もないと思うの。私たち友愛思想と本会とが一体どの程度一致しているかということをもう一度考えてみる必要があるんじゃありません？

深津 ボクがさつきいつたことは綱領を憲法として、そこから割り出したことなんだ……。

水谷 政治的問題に対するこれからのゆき方はどうだろう？

渡辺 大会を契機として会員の異動があつた、大会後の入会者は結成当時の入会者と相当の開きがあると思う。

川手 現在の会員はわれわれが説得として入会した会員である。

渡辺 結成当時の入会者には、本会の趣旨をよく理解せず単にあの人がやつているんだから、という簡単な気持で入会してきた人も多かつた。それが全国大会を機に会員が質的にも変つたしそれ以後の入会者は趣旨なりを理解して入つてきている。

奥田 いままでも政治的問題にタツチするチャンスがあつたがナベさん（渡辺常任幹事）たちが友愛の立場からそれをセーブしていたわけだ。

北川 政治的な問題にも、何もこれだけではなく対社会的な一般の問題にも対処してゆくことが正しいと思う。

奥田 本会は友愛主義の普及があくまで第一の目的だが、政治的問題もこれからもホオかむりしてはすまされないと思うんだ。

北川 地方にいつてみると憲法改正などは本会としての立場を切実に求めているんだ。

平和共存の本質は人間と人間の共存

水谷 平和共存ということについて深津さんどうですか？

深津 平和共存というのは、今盛んにいわれている共産主義国から唱えられている平和攻勢の一環としての平和共存を肯定するというのではないんだ。また国と国と平和共存ということではないんです。平和共存の真の意味は人間と人間の平和共存ということにある。この人間と人間のつながり、それが平和的に共存し得るというのがカレルギーの友愛思想ですし、カレルギーもあのメッセージの米ソ共存論でいつているんですネ（本紙誌昨年八月一日の世界平和の日運動に当り同伯から本会によせられたメッセージ）ですから、この人間の平和的共存をおびやかす原水爆には反対しなければならないのであつて二つの思想の平和的共存を意味するというのではないんだ。この意味で国家の独立が人間と人間の平和共存に役立つものであるなら独立を認めねばならないし、自衛体制とか軍備ということもこれをもとにし考えてゆかねばならないと思うんです。

奥田 カレルギーのいう人と人とのつながりの考え方は分るんですが、それが現実の問題としてはどうですか？例えばシユーマンプランとかヨーロッパ連邦論とかいう場合には？

深津 現在の段階では国と国との利害が一致しているからシユーマンプランも成立しているわけだし、その場合だけヨーロッパ連邦も可能なことは否定できないでしよう。個人の問題は第二義的に扱われていますから、国と国との利害が反したときはシユーマンプランも空中楼閣として潰れる可能性は充分考えられます。

奥田 ヨーロッパ連邦論も本来第二義的なものということですネ

渡辺 本来第二義的なものが本質論として考えられているということだ。

全國民を会員に

放談＝初夢的抱負を語る

水谷 昭和三十年、一九五五年の始めにあたつて常任幹事として初夢的抱負を一言ずつ、一つ奥田君から…大いに放談しましようよ。

奥田 今年は友愛の当り年ではないかと思うんです。そこで今年中に全国の市区町村、どんなへんぴな部落にいつても友愛の会員が必ずいるというようにしたいと思つています。そして会組織を飛躍的に増大させようと思つています。そうすれば全国何処へいつても宿に困らない（笑声）

川手 奥田構想で組織をつくり、永久に維持可能な財政的基礎を固め、八階建位のビル友愛会館をつくる。また国が学生の就職をなおざりにしているようなのでわれわれが大会社を設立して学生の就職を心配のないようにできたらというわけです。就職の心配があるようでは放談などしていられませんからね！

海野 どうしても財団法人友愛会といつたようなものが必要だ。そのためには今年の大会前後から資金獲得運動を開始して資金局を設ける。それによつて財団法人友愛会を設立する。これは放談でなく真面目な話。それにより各種事業を営み本会と表裏一体の活動を行うようにしたい

牧野 私はまだ常任幹事になつて日が浅いので皆さんの御指導をお願いするより他はないんですが、放談、放談とおつしやいますから日頃考えていることを申上げますと、日本には女性が全人口の半分以上もいるのに何時も何かしら男性に圧迫されていると思うんです。そこで婦人専用のリクエーションセンターをつくつて勿論男性はオフ・リミツトですけれども（笑声）そこへゆけば教養、娯楽、運動なんでも女性がしたいと思うことが出来るようなところを作りたいんです。もう一つは真面目なことなんですけれども、若い男性女性間の新しいおおらかな人間関係というものを見出してゆきたいと思います

渡辺 今年はネ友愛新党を作りたいと思つているだけど資金が少し不足しているんだ。少しといつても一寸五億ばかり足りないんだけどネ…。（笑声）冗談は兎も角として今年はだネ全会員から必ず会費を納させねばならないと思つているんだ。それが実現しないうちはどうも新党はできないネ（笑声）

深津 まずボクは友愛虎の巻を完成させたいことが一つ。それから日航機を借りきつて常任幹事一同がクツワを並べてカレルギーのところえ会いにゆく。これが若、実現してごらんなさい、これ本年度十大ニユースのトツプだよ……（笑声）

水谷 文化部長として友愛の文化活動の基礎理論、ひいては友愛社会の文化を理論的に打立てたい。編集局長としては取材用の自動車とスピグラを購入し、電車賃がないのでインタービユーにいけなかつたということはなくしたい（笑声）

北川 日本人の国籍を持つた以上必ず本会に入会しなければならないという法律をこしらえさせる。但し会費は一円とする（爆笑）ただいまの放談で各常任幹事の提案したいことは、すべて友愛内閣の実現によつてのみ可能なことばかりなので（笑声）その実現をはかりたい。（以上）

友愛青年同志会支部規約準則

第一章　総則

第一条　本支部は友愛青年同志会〇〇支部と称し事務所を〇〇置く。

第二条　本支部は会の目的達成のため支部連合会を補け、所属の地区を統括する。

第三条　本支部は〇〇（市・区・町・村・学校）に居住もしくは在籍する会員をもつて構成する。

第二章　機関・役員

第四条　本支部に左の機関を置く。

（一）大会　（二）支部委員会

第五条　大会は本支部の最高決議機関であつて所属の全会員並びに支部役員をもつて構成し年一回以上支部長が招集する。

第六条　大会は所属会員の二分一以上の出席によつて成立し議事は出席会員の過半数を以て決め可否同数の場合は議長が決定する。

第七条　大会は支部長・事務局長・会計・会計監査及び支部委員若干名を選出する。

第八条　大会は名誉役員を推薦することが出来る。

第九条　支部委員会は本支部を代表する執行機関として大会の決議を実行する。但し次の支部大会まで緊急の事項に関する決議権をもちその議決事項については大会に対し責任を負う。

第十条　支部委員会は支部長・事務局長・会計及び会計監査・支部委員をもつて構成し支部長が招集する。支部委員会は構成員の二分一以上の出席によつて成立し議事は出席者の過半数をもつて決める。議長は委員の互選による。

第十一条　支部委員会は本支部の会務を執行するため左の部門を置く。

一、〇〇　二、〇〇……（各部の部長は支部委員があたる）

第十二条　すべて役員の任期は次の年次大会までとする。但し再任を妨げない。

第三章　会計

第十三条　支部費は月額〇円とし本部費支部連合費と共に納入する。

第十四条　支部の経費は支部費・支部賛助会費・事業益金・カンパ資金をもつてあてる。

第十五条　会計は支部委員会の承認を経て寄付金を受けることが出来る。

第十六条　本支部の会計年度は〇月〇日より翌年〇月〇日までとする。

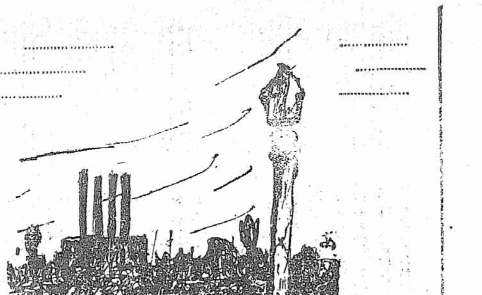
第四章　統制

第十七条　会員であつて統制保持に関する細則第三条にふれる行為のあつた場合、支部委員会の議をへてその処置を本部統制委員会に申請しなければならない。

第五章　附則

第十八条　本規約は大会において出席会員三分の二以上の賛成がなければ変更することができない。

第十九条　本規約は制定の日より効力を生ずる。



米国式から日本式に

XXXX 教育制度改正の声 XXXX

敗戦後教育制度は大きく変革された。教育の機会均等民主的な人間の完成を目指して米国式教育制度が旧来のスパルタ式教育にとつてかわりつつある。戦争による都市教育施設の破壊が甚大であつたにもかかわらず中学校も義務教育、従前の中学校は、高校、専門学校は大学にと昇格し日本は形態だけは世界有数の教育国になつた。一国家として再発し見た日本にとつては誠に祝福すべきことだ。しかし国民の一人当りの所得額が戦後激減したにもかかわらず義務教育の三年延長、進学希望子弟の増加は父兄に多大の出費をさせ最高学府の大学は四年制大学、短期大学のほかに二年制の大学院ができ駅弁のある処大学ありといわれるほど増加した。

前吉田内閣においても戦後の各種制度改革は占領政策に基くものであり、一昨年の日本独立後占領政策の是正の名のもとに逆コースの道をたどり始めた。教育制度もその例にもれなかつたのである。大達茂雄氏が文部大臣に就任するとその傾向は一層濃厚となつた。今注目の的になつているものに短大制度の改革が挙げられよう。すでに具体案もでき上り明春からの実施の見こみは大である。現在の短大がほとんどの各県に存在し二年間（工学関係は三年のところもある）この間に一般教養科目と専門科目を修得せねばならぬため両方とも中途半端な教育に終つている。そのため専門的には大して就職に際して役に立たず、雇主から敬遠されるしまつになんとかせねばという声が起つたのである。

この問題は中小大学の経営難を叫ぶ声と共に本年はさらにこの問題をめぐつて教育界の話題をさらうのは間違いない。現在短大に在学している学生の短大制度のなりゆきに対する関心の深まりもさることながら実業教育を実効的に行う目的をもつ短大制度の改革は実業界にも関心が高まつている。

友愛の実践こそ

人類の悲願のために

竹　田　　勝

日本の四季は美しい。春の桜、秋の紅葉、夏の朝、冬の雪山。一年を通じて四季に変化があり、われわれはそれを楽しむことができる。だが欧州の人たちも、南米大陸の人たちも、そしてシベリヤに住む人たちでさえも、自分達の環境をわれわれが日本の四季を美しいと思うのと同様に愛しその美を感じているだろう。若者たちは恋を語るだろうし、老人たちは過ぎ去つた青春をそれぞれの環境の中の美しく思いめぐらしていることだろう。世界の何処に住んでいるにちがいないのだ。有史以来の文明が文明自身の手によつて破壊されようとしている現代のありさまをアルプスの乙女もシベリヤの木こりも同じように嫌なことだと自分達の体で考えているであろう。それだからこそ私はじつとしていられない。現代の危機に対して何をなすべきか、それは今更私ごときが云々するまでもなく論議しつくされている。だから私はそうした議論についてとにかくいうつもりはない。だが私たちが今如何に叫んでみてもボヤいてみても水爆は投下されるかもしれないし、また砲弾の飛びかうのを避けることができるだろうか、いいたいのだ。

この国際連合というものがある。この組織はこの地球に全き平和をもたらすかのようにいわれている。だが彼らのもたらした平和とは一体どんなものだ。不安におののく平和でしかないではないか。私達は、私達が手を取り私達が話し合つて得れたものでなければ信用ができないのだ。私達の社会は単に社会関係、経済関係のみで結ばれているものと理解していれのこそ、妻子相打ち朋友相戦う結果が生れたのだ。人間社会に妻子相打たねばならない程みじめなことはないだろう。社会と社会の利害争いのために肉親を捨ててしかも友人同志打ちという戦いに追い込まれて、何処とも知れぬ山野に海底にその彼らが身を埋めてしまつた人々の悲しみを思い起さねばなるまい。今は亡き友たちは山行くも、海行くも声を同じくして私達新しい倫理を持つ同胞に何を望んでいるだろう。彼らは決して再び争うなかれと叫んでいるに違ひないのだ。われわれが知らずに生んだ社会のそしてまた、自分自身の悲劇を再び繰り返えさないように、と亡き友は叫んでいる。現に彼らの肉親がそのことに声を潤らしているではないか。私達自身あの悲しき戦禍の中にかろうじて生命のみを保つて来たこの（或る意味においては）貴重な経験をもち、さらには肉親の悲声を聞きまた直接殺し合いに参画した人々とて嘆き呻いているのを私達は知つている。

その上に敗戦は私達の経済環境に重大とも何ともいいしれぬ効果を育らした。苦痛にあえいでいる多くの人々を私達は見ている。私達は大戦によつて生じた社会問題、経済問題をいい並べて行けば全く限りがない。そこで思うのであるがこれ程迄に苦しんで来た私達の中に、もはやその苦しさを忘却したかのように思われる悪神の士が現われ出したことは誠に以て残念である。私はわが国の再軍備をもつて直ちに戦争傾向と解すべきではないと思うが、例えば再軍備問題を除外してみてもわが国に、既に戦争への心備を急いでいるような傾向が見うれると思う。地球上に生存する人間の心の奥深くには常に排他、征服のこころが渦いているのだろうか。倫理問題はここにおいて俄然紛糾してくるであろう。私達の友愛運動をこのような問題に触れた上で進められているものと信じているが、この問題の解決こそ、世間を平和ならしめるか否かのカギを握つているのではないかと考える。征服への欲望こそ社会関係を生せしめ、経済組織を生んだものなのだ。そして現在の状態が続く限りにおいて、必ずこの種の欲望は断えることなく、否々ますます人心に深く根ざして行くのではないかとおそれるものである。そこでこうした欲望の根本的解題を如何にして成し遂げるかという新しい問題にぶつかる。それでは経済が解結を与えるだろうか。決してそうではない。経済界はやはり殺し合いの場所である。喰うか、喰われるか、喰われたものは、再び日の光を見やらずに、彼らの資本界（特にこのような言葉を使つてみた）から追われ活躍することが出来なくなるだろう。

ではこの社会に一定の過程を経て革命が起り私達が、今や楽しと、勤労と享楽にその日を過すことのできる社会がやつてくるか？だがしかしさてこそその革命が如何なる目的を持つていようと、相も変らず欲望と欲望の対決に終始することは多言を要せずともあきらかであろう。私達はこれと同様に、一単位の経済社会における政治についても考えることができる。そしてこうした観点からしてでは、私達をして永遠に平和を叫ばしめ、これと並行してその都度平和の叫び声を空白に響かせてしまうだろう。

私達は征服に対する欲望を捨て、互に裸になることこそ唯一つ残された、平和への道なのである。友愛とは裸と裸の人間が共に手を連ねることをも意味する。私達の目同は常に平和である。ここに至つて、もはや過去の因果を云々すべからず、速かに一人でも多くの同胞が、否私達の前には全人類が同胞なのだ、これがすべての争いを捨てさつて、手に手をもつて、より大きい輪を創造せねばならない時が到来しているのだ。そしてこのような抽象論は明らかに皆びとの知るところで、ようところは全く暗らき有様であることについて、繰り返し反省を必要とされるべきことなのである。（筆者は和歌山市在住会員＝投稿）

友愛講座（5）

わかりやすい友愛の解説

第　五　講

友愛運動は人間の間の平和運動である。

世界永遠の平和は『国家』と『国家』の間の『共存』によつてではなくして『人間』と『人間』との平和的『共存』によつてもたらされる。

中　央　教　育　指　導　部

最近、本会のいろいろな集りでいわゆる『平和論』が論じられ、会としての平和運動に対する考え方が問題にされるようになりました。そこで、本講では、この問題について、はつきりした立場を、申し上げておこうと思います。

この問題について、私共が最も多く示唆を与えられ、指導をうけたところのものは本年八月一日、クーデンホフ・カレルギ伯がスイスのローザンヌにおいて発し、本会に直接送られた『平和声明書』であります。まず機関誌『友愛』九月号にのせられている同声明書の全訳をもう一度よく読んでいただきたいと思いますが、そこで述べられていることは要約しますと大体次のようなことであります。

一、原子爆弾、水素爆弾を戦争目的に使用させないことが現在の人類に与えられた最高の使命であり、義務であること。

二、全世界各国による平和会議を開催すべきであること。

三、東西両陣営間の平和的共存は可能であること。

これらの主張に関して、多くの方々からいろいろな意見、批判がよせられました。そしてこの声明に対する反響の中で殆ど共通と思われることがらはカレルギの説く『平和的共存』というものはどのような性質、内容をもつものであるかということであります。

平和的共存ということは、最近ソ連中国圏の側からいわゆる『平和攻勢』の一環として主張されているところのものと同じものではないかというのであります。

しかしながら、カレルギの説く『平和的共存』は、そのようなものとは全然主張を異にしているのであります。カレルギの『自由と人生』をよくお読みになれば、お分かりになると思いますが、『人間性』を否定した主義、主張とは、その性質を全然異にするのであります。人間の社会を階級闘争の立場においてとらえる『平和』の理念は、究極にはやはり『闘争』『戦』といつたものと予定しているものであるということができます。

カレルギの立場に立つて、この問題を考えてみますと、人間の社会が存立して行く基礎的要件は何かというところから出発しています。人間の社会が存立して行くための第一の要件は、人間の尊厳性を相互に認め合うということであります。人間はこの社会の中で、最も尊いというもの、崇高なるものという根本的な考え方に立つて、自己自らの尊厳性を自覚すると共に、他の人々の同様な価値を持つた尊厳性を認めるということであります。

自己の尊厳性と、他人の尊厳性、これが平等な立場において相互に認め合う、これが友愛の基礎であります。これが社会存立の最高要件であります。

国家主義という考え方があります。個人は国家のために何ものをも、そして生命をも犠牲にすべきだという考え方が流行した時代があります。この考え方においては簡単にいいますならば人間はすべて国家のためのものという立場が第一に考えられたのであります。しかしながら、友愛運動の目ざす社会は何よりもまず人間の尊厳が第一で、国家はそれに対して奉仕するためのものでなければならないのであります。

国家主義と同様に、1つの予定された社会構造というものを『理論的』に組立て、それに対して、すべての人間を奉仕せしめるという考え方も、また『友愛』の立場とは異なつて居ります。マルキストのいうように『歴史の必然性』によつて理論的に考えられた社会か、絶対のものと考える立場は、人間を、単にその建設に役たせる道具としてしか考えていないのであります。

『主義のために死ぬ』とか『党のために戦う』という半ば狂信的な考え方は『人間性』を無視することがしばしばであります。それは『人間』よりも前に『主義』であるからであります。

私達の『友愛』の立場は、何よりも前に『人間』を考えるのであります。カレルギの説く『平和的共存』は、このすべてのものに優越する『人間』の存在のために主張されているのであります。原子爆弾を『国家』のために『主義』のために使わうという人々が、悲しいことにこの世界に存在しています。それは、人類の生存ということよりも前に『国家』とか『主義』を考えるからであります。カレルギは『自由と人生』の冒頭でいつております『国家は手段であつて目的ではない』と『人間』こそが目的なのであります『人間』の死を『国家』というものの存立のために奉仕させようという考え方が如何に誤り多いものであるかよくお考えになれば分かると思います。

この『人間』の立場に立つ限り、すべての『人間の存在』を危うくする行為は否定されなければなりません。

原子爆弾とか水素爆弾というような『人類』の滅亡を予定する兵器は、あくまでも使われるようなことがあつてはならない。こういう考え方は、全世界のすべての人々に分かり過ぎる程分かつている筈であります。この主張を基礎にして、それでは現在の緊迫した世界を救う方策は何かとして、主張されることがカレルギの『平和的共存』の考え方であります。そしてさらにもしこのカレルギの説く『平和的共存』と共産主義者達の説く『平和共存』が似ている点があるとするならば、後者はあくまでも『一時的』な、そして当面の宣伝活動のためのものでしかないことをはつきり認識すべきであります。そしてまた彼等の説く共存は『国家』と『国家』の間の共存関係であつて、『人間』と『人間』の間の共存関係でないという点を深く注意しなければなりません。この考え方は『世界平和』の問題から離れてもつと小さな、私達の身のまわりの『平和』の問題についても同様に考えることが来ます。

すべての人々が望み、願つているもの、それは具体的にはいろいろ挙げられるでしよう。しかし最も重要なものは何であるかといえば、それはまた『平和』であると何人も、何のちゆうちよもなく答えるでありましよう。一個の人間はまず、自らの心の平和を求め、村、国の平和を望み、そしてさらに世界の平和を願つて毎日働らき人々は平和のおとずれの中に、はじめて心からなるやすらぎを覚えるからであります。

友愛の運動は、このような意味において、平和のための運動であるとはつきりいうことができます。

ここに一人の人間がいるとします。彼は村や町や市の一員であると同時に県民であり国民であります。ある職業を持ち、会社員であるならば労働組合の一員であるかもしれず、趣味団体や宗教団体の一員であるかもしれません。このように一人の人間は様々な社会集団の一員としてそれぞれの能力と分に応じた働らきをしているのであります。これらの人間をとりまく社会は各々目的も組織も活動も異つていることは当然であります。

しかしながら、これらの社会内の『人間関係』が、自己の尊厳を自覚すると共に、他人の尊厳をも認めるという『友愛』の立場に立つならばその内部における『あらそい』とか『闘争』とかいうものは、発生する余地がないということができます。勿論、すべての人間がこのような自らの尊厳に目ざめるということは理想に過ぎないといわれる方があるかもしれません。しかし私達の運動は、この最高目標に向つて絶えず努力しなければなりません。

一家庭内の平和は、家族によろこびを与え、隣近所の間に保たれる平和は、社会の持つ連帯の観念を培い、国家と国家の間の平和は、人類の進歩を約束します。一家族全体が睦み合い、はげまし合つている団らんの姿は、何よりも社会そのものの本来的あり方をさし示しています『向う三軒両隣り』の平和は、その街、その村の発展の基礎となるからであります。

このような『平和』の運動こそが『友愛』の運動そのものであり、その意味において、友愛運動は、人間の間の『平和運動』である。ということができます。そして村や町の平和が『人間』の友愛関係において齎らされると同時に、世界の平和も、地球の上に住む『人間』の間の『友愛』関係によつて『齎らされるということであります。即ち『国家』と『国家』の間の共存関係ではなくて『人間』と『人間』の間の共存関係であるということであります。この基礎のもとに『平和』が実現されるべきであり、それに向つて行く運動が、私たちの運動なのであります。（第五講終り）

賀正

銘酒

月の友

釀造元

水谷甲次郎商店

茨城縣多賀郡磯原町

電話磯原十二番

今年の農業

農村会員のために

今年の農業はどうなるだろうか？そして如何ふる施策が望まれるべきだろうか？昭和三十年一九五五年始めにあたつて農村会員のためにこの問題を日本政治経済研究所主任研究員市瀬正幸氏に聞いてみた。同氏はかねてから本会農業問題研究会の講師をお願いしてあり、また昨夏の軽井沢講習会にも出講していただいた方。農業経済の少壮エキスパートとして著書も多多い。

◇今年の農業はどうなるでしようか？

二十九年から日本の農業構造は徐々に転機にうつりつつあつたんだが、今年はそれがはつきりあらわるでしよう。

◇それはどういうことですか？

というのは四、五年前から農業恐慌がまあ来るといわれていたんだが（いろんな農業雑誌や新聞などで読むだでしよう）それが今年になつて現実の形として現れてくると思う。大体従来そういうことがいわれていたのにその観測があたらなかつたというのは、国内の米麦価格（特に米価だが）が低米価政策のために外国食糧との差がひろかつたからだ。吉田内閣の農政は農家所得の安定、農業生産対策食糧対策の三つが価格政策一本にしぼられて統制管理という形で行われてきた。その結果農産物価格が上昇したが農産物価格の底というものは非常に固くなつた。そして不合理なものとして国際価格にサヤ寄せされてきた。ところが海外の米麦事情が好転してくるにつれてその価格は下り、国内のそれは上昇の一方であつたので二十七年頃には海外と国内の米麦価は海外の価格の交叉二十八年には麦価は海外のものを輸入にしても安くつくようになつた。

◇それでは米の統制を撤廃するなどということはできませんね

その通り。農家の自滅をまねくだげだ。現在価格の均衡はくずれ、あらゆる価格大系が凸凹になつているんだから農家収支の安定は望めない。かえつて貧農はますますまずしくなり、富農はますます富んで戦前の地主的農業に逆もどりするだけだ。

◇今年の農政の課題は？

まず農政全般について再検討することだ。それは今までの凸凹のある価格体系を生産方式、経営方式と結びついた産業近代化を目標にした総合施策として行わなければならない年であろう。

◇価格政策の建直しというと生産費方式をとるべきだということですか？

それはとれない。こういうことです。米、麦、蔬菜等のデコボコのある価格体系を平らなものにするということで、それと併行して外国食糧の圧迫から農家経済を保護するために支持価格制ではない保護政策をとるべきだという事だ。生産費方式をとれるとすると全国的にその価格の差が非常に大きくなつてくる。しかし価格とはもともと需給関係によつてのみ解決すべき問題なのだから国内産農産物とその需要によつて決めなければならない。そうすると各産地で異る価格を生ずる生産費方式では、需要がある生産地帯にかたよつてくることになり。その影響するところは大きい。だから農家が生産に必要とするすべての資材を全国平均的に考え、その規準価格を決定しこれにより割出した統一価格による保護政策を立てるべきでしよう。しかしそのためには農業統計を全般的に検討し科学的な信頼のおけるものにする必要がある。

◇次に農業生産かどのようにすべきでしようか？

この問題は国際収支を改善することを目標において行われなければならないと思う。ここで国際収支ということは輸入食糧の問題があるからである。これと睨みあわせた農業生産拡充政策をとる必要がある。

◇具体的には？

今日のわが国の経済状勢では直接未開拓地に財政資金を投資する－勿論幾少必要量の未開拓地開発は必要だが－ことなく、ダム中心の立体的農産を実際に行うことである。このダムはいわゆる多目的ダムであつて、その建設により雇用量を増大し失業救済の事業とし発電力を増大させ、流水は農業かんがいに役立つようにするものである。

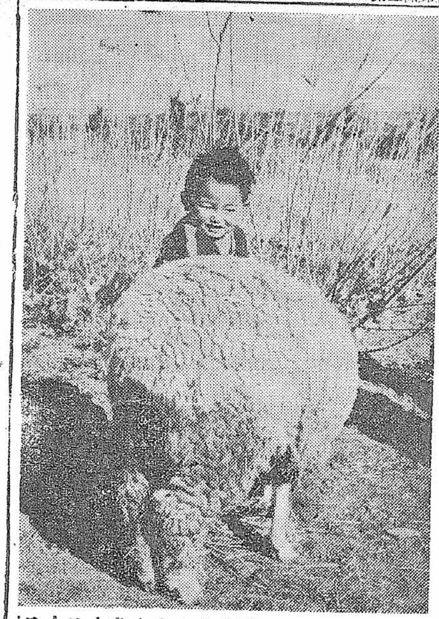
◇その場合、財政投資の政府資金が民間の所得を増大するとすれば、インフレ要因にはなりませんか？

勿論この財政投資資金が消費需要と交流しないようにしなければならない。この失業対策というのも、デフレ進行中のそれは申訳程度の失業対策などではまにあうものではない。インフレにしないで雇用量を増大させるかインフレにしてしまうかの二つしかない。これは分りきつたことです。今日のわが国ではとてもインフレは及びつきないとすると前者をとらなければなりません。そのために産業構造をインフレにならぬように再編成しなければならない。それには前にいつた多目的ダムの建設が比較的実現しやすいということです。話がワキにそれましたが財政投資による多目的ダム建設で民間に流れる金を消費需要に交流させないためには、消費税とか所得税あるいは貯蓄といつた方法で充分その効果を上げることができるはずです。これは農村にある貯蓄高をみれば分ると思います。

◇最後に農家人口は当然減らさなければならないと思いますがこの点一つ…

そうです。現在の七〇…理想的には五〇％までへらしたら良いのですが、それはなかなかむずしいでしよう。ケズられた分だけ自衛隊なんかか増加され、そのための負担が税金で還元されたんではね…。そのためにも多目的ダムの建設を行うべきです。現在農村の潜在失業者は〇〇〇万、これを六百万乃至八百万の顕在失業者として多目的ダム建設のような一時雇用にむけてその間に産業構造そのものの再編成をはかる、というのが理想的ですが、これはとても望めないでしよう。だが潜在失業者を顕在させることが容易にできずにいて、余剰人口を一時雇用にでふりむけるできないとする、農村のこうした人口は小作人なり地主農業への逆コースをたどることになる。その時に恐慌は本当の姿をあらわして農村を襲うことになります。そうなつてからの救済は結果的にいえば封建的なものにならざるを得ないのです。

どうもいろいろとありとうございました。（文責在記者）



誰？羊は迷うだなんて。ピースの箱の図案は鳩君に譲つたけれどのどかな春の陽を浴びたメエメエ楽園はほんとに平和そのもの うん、おすもうとつてんだよ。坊やのような子が大好き。ウンショ、坊や強いね エイショ、やつぱりメエメエの方が強いや。

農産物価格と農民

川手正一郎

生活につながる密接な問題

デフレ政策の影響を受けてか農家の生活も徐々に苦しくなつてきている。何故なら一般消費物価というものは収入に比例してそう簡単に値下りを示めすものではない金融引締政策が一応の段階に達した現在昨年上半期に比してようやく消費物価もいくらかの値下りを示してきているとはいえ、まだまだ収入に比較して値下りしたという印象を与えない。というのは、一応物はあつても今度はそれを買う金がないからである。特に農家の場合、一昨年の収穫も思つた程でなく、金融引締の結果のしわ寄せをされているような状態である。

では一体、農民の現金収入に直接つながつている農産物の価格というものはどうして決められているのであろうか。この問題は農家の生活問題と密接不可分のものであり、農家の最低生活保障に関連した問題として農民自身熟慮しなければならない重要な問題である。

最終決定権を持たぬ農民

現在の農産物の価格は、米麦価野菜・果実価、繭価等に分けることができるが例えば米麦価については、米価審議会において検討された価格を時の政府が最終的に決定するのであるが、現在のところその生産価格という問題以前に政府の政治的な見解からそれを決定する傾向が強い。そうして農民の発言というものは単に米価審議会の構成メンバーとしての一人であるに過ぎない。だから与えられた米価がどうあろうとも農民としてよりも国民の一人として納得せざるを得ないのである（これは食糧問題が他の問題と異り特殊であるためであるが）また繭価についても一応生産者と資本家との話合いの場は与えられているにしても最後の価格決定権は農民にあるのではなく資本家に委ねられている。野菜・果実等の価格は、そのすべては市場の手により、ここにおいては農民の発言は最小限にとどめられている。ここではすべてが需要者とその関係者委せである。即ちある農産物の需要が供給を上回れば価格は上り、供給が需要を上回れば価格は下る。このような需給の関係は、農産物が生産費に達しているか、いないかは少しも問題でなく、むしろ日本の場合は限られた需要に対する供給如何によつて決定されるのである。このような関係は、日本資本主義経済における農産物市場の特性であろう。

売手まかせの生産資材価格

以上述べたようにして農産物の価格が決定されているのであるがいいかえれば、現在の農産物の価格の殆どは農民自身の手により決めるのでなくして、むしろ農産物需要者やその関係者当局等によつて決定されている。勿論、単に農産物ばかりでなくすべての産業の生産物がそれと同じようにして妥当な価格が決められるのならとにかく、現在の日本においては、それが単に農産物に限られ、他の産業の生産物はその生産者の生産価格によつて取引されているところに問題がある。即ち、農民の必需品例えば台所のナベ、カマの類から農耕の機械等その他社会生活に必要なすべての物、また娯楽機関に至るまで、それはその需要者やその関係者（即ち農民その他の消費者）が決めるのではなく、その生産者が その生産物 であるナベ、カマ、機械、衣料等の価格を決定するのである。

農産物に最低保証価格を

換言すれば、農民は農産物の生産者でありながら、売るのにもまた買うのも相手（売る時は需要者並びに関係者、買う時はその物の生産者）の与えた値段を甘受しなければならないのである。

この状態でその時代の文化的健康な生活が維持されあるいは保障されるのなら問題は別であるが、それのない農村の現状はあまりにみじめである。とくに最近デフレ経済の影響を受けてか農村の貧富このような差はますます甚だしくなつて来ている。健康で文化的な生活をしている農家が一村に何戸あるだろうか。こう考える時、農家最低生活を保障するためにも、農地制度改革問題と同時にすべての農産物に対し最低支持価格を設定する必要性を痛感する。

農地問題は別に論ずることにしてでわ一体このような農産物の最低価格は如何にしたら実現出来るだろうか。考えられるのは、過去の農家の農産物供給に対する態度である。低い価格に下落する前に考えなければならないのは目先の利益に走るのを慎しむことある。例えば野菜の場合、Aさんが昨年キヤベツ作つて商利益を上げたので今年は一村の殆どがキヤベツを作つたため商利益はおろか生産費にも満たないという現象は過去しばしばみられたところである。たれば農村が都市の限られた需要に対する供給をなんとかして調節しなければならないという非常に良い例である。野菜の場合は肉や魚と違つて大根が一本十円から八円に値上りしてもそう需要は増すものではないこのような問題を考えるに当つてまず思うのは、第一により生産費を切下げることである。今まで大根一本十円の生産費がかかつたのを、九円位とし品質の向上を計ることは、技術的にも可能でありまた今後の農村では是非とも考えられなければならぬことである。

次に、小は各農家、大は一村一県引いては全国的な作付面積の合理的計画化である。しかし、このような問題は非常に困難な問題であるため単にこの問題のみでなく、それとともに農民が互の利己心を捨て互の利益のため団結し、農協の組織の強化、合理的運用等としてその上にたつて農業全体の計画的発展を計らねばならない。

農家の生活の安定する時もこうした問題が解決した時であろうが早急にここで解決を望みたいのは、農産物の最低保証価格設定の問題であろう（筆者は本会常任幹事）

今後の食管制度がカギ

海外米麦価下落の影響

〝今年の農業〟における市瀬正幸氏の話にもある通りわが国の米麦価は海外のそれに比して割高であるという。ではそれがどのように国内産の米麦価に影響するであろうか？、簡単に解説してみよう。今までの海外米麦価（ここでは輸入価格）の経過をみると、小麦過剰でその価格が下落し、米麦の相対価格の変化が食糧需要における代替効果を生み、米の過剰がこれについだ。勿論その品質、日本人の嗜好等から必ずしも輸入米は安いといいきれないが、小麦については外麦は安いといえる。そこでその影響のあらわれる過程であるが第一は一㌦三六〇円の公定レート、第二には食糧管理制度の運営を問題としなければならない。経済実勢としてこの公定レートはしばしば問題になつているが、このレートにおいて海外米麦は国内のそれに比し安いのであつてレートが変れば問題となる。もし為替レートが改正されないとすれば現在の海外市場の動きから国内米麦価との開きは増加するとみなければならない。しかしわが国の農業生産は輸入米麦による消費市場の値下りと対抗できるほどの力はもつていないであろう。国内的にも供出割当の困難が農家の販売価格（生産者価格）を高めようとするために食管制度の再検討が要請されているとき、海外米麦価の国内米麦に対する影響は今後の管理制度如何にあるといえる。（M）

現代人の知識の泉

雇傭・利子及び貨幣の一般理論
J・M・ケインズ著　塩野谷九十九訳　A5判　五〇〇円
マルクス理論に対決す新しい経済学の出発点—ケインズ経済学の原典である。本書を読まずして近代経済学を論ずる資格はない。

社会主義対資本主義
A・C・ピグウ著　北野熊喜男訳　B6判　二五〇円
今世紀の最大の課題である社会主義か、資本主義かの論争を、著者が特に意識しつつ、一般大衆向に平易に語つた名著。現下日本国民にとりて必読に値する。

賃銀の理論
J・R・ヒツクス著　内田忠寿訳　B6判　四〇〇円
賃銀理論においてのみならず、分配理論の一般的著作としても最高権威の基本書。労働争議、労働組合勢力の消長にも言及、実際問題処理に示唆を与える。

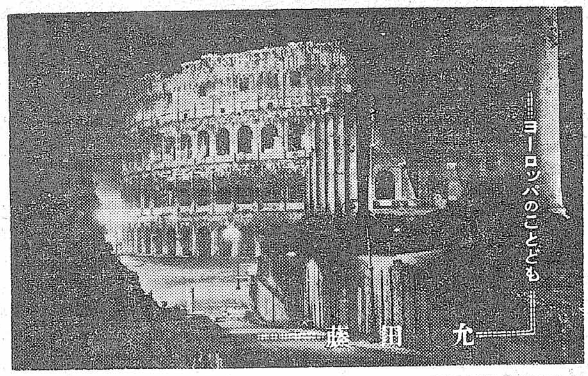
経済学入門（全二巻）
J・E・ミイド著　北野熊喜男　木下和夫訳　上三四〇円　下三〇〇円
平易明確な経済学入門書で、経済理論が、現実の経済問題処理にどの程度の解決を与えるかという理論の現実的意義と、政策の理論的基礎とを説いている。

經済講話
土方成美著　B6判　二五〇円
経済秩序に関する四つの思想につきその起原から、原理、論争点にいたるまでを専門的術語を避けて極めて平易に語つている一般向の経済入門書。

英国労働党の社会主義政策
関嘉彦著　B6判　三〇〇円
戦後、政権を握つた英国労働党がどのような政策を行い、社会保障制度をどのような寄与をし、社会保障制度をどう行つてきたかを実証的に究明している。

ソヴエート同盟の経済制度（全二巻）
A・M・バイコフ著　野々村一雄　岡稔訳　（上）A5判　四五〇円
革命後のソヴエート経済制度を分析したこの領研究の代表的著作。膨大な資料を駆使して事実の克明な分析を行い然も中立的態度で執筆している。

東洋經濟新報社
東京日本橋本石町三
振替東京6518



ヨーロッパのこども

藤田　允

敬服した遺跡保存

暑い夏の日ざしを浴びてローマ飛行場に降り立って真直ぐにアッピア街道を古都ローマに向うバスの中で、私はあの『クオ・ヴアデス』を思い出し、またあの名画を思いうかべた。当時の世界の中心として、その偉大さを示したのは二千年前のことであった。しかしその偉大さが今もなお残っているのがこのローマである。日本の歴史、文明、文化も古いけれども今度ヨーロッパに二度目の旅行をして彼の地においてはそれらが実によく保存され、伝承されていることに驚き、また尊敬の意を表せざるを得なかった。たとえばローマの郊外に、有名なセント・オーバンスという街があり、私も彼の地の友人に招かれ数日滞在したことで私は二千年の昔、ローマ帝国が繁栄の絶頂にあったとき、この地に築いた巨大な城壁や城門の跡をみることができた。またローマ人が築いた大きな池は、今もなお多くの楽しい遊び場となっている。ローマのコロセウム、フォーラムタイバー河畔の古城等、旅行者の私をこんなにまで強く印象ずけたものは他になかった。

イタリー人は実に親切であり人なつッこい。私が今度の旅行でわざわざイタリーを再び訪れたのも二年前の好印象からだ。そしてミラノの大教会を再び訪ね、二年前と全く同じ静な思いにふけることができた。イタリー人の親切さは私が二度乗ったイタリア航空会社のサービスぶりにもよくあらわれていて、今までのどの航空会社よりもゆきとどいていた。

"古さ"を守る英国人

"古さ"ということを、英国の一カ月間で再び学ばされた。建物の古さは勿論のこと、彼ら英国人の言葉、習慣、礼儀作法等が実に古い。数世紀前のままで受け継がれているのである。オックスフォード大学における食事のエチケットまた大学生の白のボウタイ（男子学生）とか黒のストッキング（女子学生）、まして教授諸公の長いガウンなどはとても日本の大学では考えられない。これらはある意味では不合理な生活形態でもあるしかしそれが守られているところに伝統がある。

私はケンブリッジにA・G・Hモウル先生を訪れた。先生は七十二年前に十四歳で、宣教師であった父君に伴われ日本に来られ、五十年前『日本の魂』と題する名著を出版（英文）第五高等学校（註＝旧制、熊本にあった、夏目漱石も教授であったことがある）で教鞭をとられた方である。今なお一日数時間日本の書物を読み明治天皇を尊敬するというしかも立派なキリスト者である先生との二時間の会話の間に、この老先生が自分の国の古いものを尊敬するとともに、日本の古さ、文化、伝統に対して日本人の誰にも劣らない愛敬の念を捧げておられることを強く感じた。

カットはローマにあるコロセウムの遺跡夜景＝筆者提供

筆者藤田允（マコト）氏は日本学生奉仕団の総主事としてその設立の初めから献身的に奉仕しているクリスチャン。既に欧州各国にその足跡を印し南米の一部と豪州ぐらいが世界中でゆかなかったところという。国際的に視野の広い人。本会昨夏の軽井沢講習会で講師をお願いしたが、その直後、欧州を飛ばれ昨年晩秋まで各地を旅行してこられた。本文もその時の印象記である。右は昨夏羽田空港出発時の筆者。

オランダーロッテルダム街頭におけるヘーリング（本文参照）立食スナップ＝筆者撮影

今もはかれる木靴

オランダら漁港を訪れ、漁民のお内儀さんたちが実に純朴なのに感心した。童話に出て来るような木の靴（サボ）をはき、白い頭巾を被って、一日の漁から帰って来る夫や息子を迎える夕暮の風景は美しいものだ。

街には屋台で『ヘーリング』という塩漬にした生の魚を売る小父さんたちがいる。日本人の私にはなんといっても大好物で、私は街に出るたびにこれをつまみ、大いに日本の味をしのんだ。オランダ人は日本に関しては実によく知っている。あの有名なレンブラントの『夜まわり』の画のあるアムステルダムの博物館では日本の浮世絵の展覧会をやっていた。又私が一週間宿泊して世話になったボツプ・ウエルマン君のお母さんは小泉八雲のものを愛読し、殊に日本の怪談には興味を感じておられる。

まだ残る対日憎悪

だがその反面、英国でもオランダでも十年前の痛手を決して忘れてはいない。教育のある人々はそんなことを口にしないが、心ない人々は憎悪の念を今もっていだいている。

ロンドンのベーカー・ストリートで私は一英国人に非常な罵倒の言葉を浴びせられた。この人をうらんではならない。私たちは日本人として彼らにうらまれ、憎しまれるようなことをしたのだから。でも全世界からこの深い憎悪、誤解、偏見を取り除いて、真の平和を築きあげることが、われわれの使命でありこれこそ"友愛精神"なくしてはできないことである。

私たちのちがいは、人種や皮膚の色や、宗教ではなくて、むしろお互の無理解や認識不足、さらに相手の立場になって物ごとを考えようとする思いやりの欠如からきている。

何時も外国の旅から帰って羽田の土を踏んで感ずることはこのことなのだ。

新春雑詠

斎藤　宵路

元朝のひこばえ多き圃に佇ちて
初霞年輪現れし川の杭
初霞人去り行きし田圃道
突き上げし羽子澄む空の彼方欲ふ
空無限大佛を越えて走る紙鳶

今朝の春

内山一草堂

笑相の笑顔美し今朝の春
初硯雀頭といふ筆愛す
初風呂の新湯つんつん膚をさす
凧の陣音羽の坂の眞上にて
今朝の春百事忘れて懐手

世界民青連代表來日

世界民主青年連盟では、かねてより、わが国における青年運動の実態をみ、今後一層連携を強化するため、代表団の派遣を考えていたが、去る一月四日マルコム・ニクソン氏（イギリス）を団長とする六名の代表団が来日した。その歓迎会も七日、東京・日本青年館において、日本民主青年団等が中心となって行なわれた。同代表団は約一カ月日本に滞在しその期間中わが国の多くの青年、特に日青協をはじめとした中正的な青年団体の幹部とも話し合うことになっている。

このように、東欧圏が中心となって組織している民青連が、立場の異なる青年や青年団体と話し合うことは、東西両陣営共存の風潮とは別に、いわゆるアジアの中立主義的傾向に重大な関心を示しているもので、今回の代表団の顔ぶれも、インドネシア、カナダ、フランス、イタリーの青年代表であり、あえて東欧諸国の代表を選ばなかったことも意味深い。いずれにしろこのような、民青連の日本に対する働きかけによって中正的な青年団体いかなる態度を示すか、また民青連と相対立する世界青年者会議がどのような動きを示すか、本年の世界における青年運動の活気を物語るに充分であろう。

××××××××××××

二つの世界から呼びかけ

○……青年・学生団体に対して……○

××××××××××××

最近わが国の青年学生等の海外渡行がめだつとともに、各種の国際会議・催し物等に出席参加が多くなってきたが世界の青年、学生の動きも会議や催し物の性格並びに主催団体、招請団体によって、現下の世界情勢そのままの姿となってわれわれの目にうつって来るようになった。特にわが国の各団体が世界的組織体に加盟することによって、一層明確になり、加盟の国内団体を通じて行うプロパガンダによって一般青年学生の間にもようやくその全貌が知られるようになってきた。すなわち青年組織をみれば、世界の大勢が東西に二分されている如く、東欧圏を中心にした『世界民主青年連盟（WFDY）』西欧圏の青年団体が中心となって組織する『世界青年者会議（WAY）』があり、世界の多くの青年団体はなんらかの形でどちらかの影響をうけているとみてよいであろう。それが正式に加盟しているかいないかは別として各国の青年運動に大きくのしかかって来ていることは見逃せない。民青連系のわが国における働きかけは早くから行われ、いち早く共産系青年団体はこれを受け入れ、活発な宣伝活動を国際的背景のもとに展開していたが、特に本年一月には民青連幹部の来日等があって一層強力な呼びかけが行なわれることになろう。またその呼びかけも、最近しきりに喧伝されている東西共存の風潮に影響され広範かつ弾力性のある方針をとる事が予想される。世界青年者会議においても昨年夏シンガポールにアジア青年会議を開催わが国からも日青協をはじめ多くの団体の代表が出席する等おくればせながら、わが国にも働きかけを行うようになった。ここで注目すべきことは、米国をのぞくその他の西欧諸国中には、両者の系統に属する団体がはっきりと相対して国内活動を行なっていることである。アジア諸国のうちには同じ団体が相方の会議に参加することもみられ、アジア諸国のおかれている立場が青年運動にも反映している。

×　×　×

学生組織も同じく二系統に大別できる。すなわち東欧圏中心の国際学連、西欧圏中心の学生連合連絡事務局の二つに分けられあらゆる面で相対互している。国際学連にはわが国の全学連は早くから加盟しており、執行委員に選出されている。しかし昨年まではわが国の代表がおくれず同学連の直接的ないぶきを感じとることが出来なかったが、昨年一月ウイーンで開催された、国際学連執行委員会には全学連中央執行委員長松本登久男君が出席、続いて八月モスコーで開催された評議会にも、代表を出席させ国際舞台え進出の道を開いた。また国際学連では、各学科別の会議にもわが国代表を招請一応の成果を上げているこのように昨年以来学生の国際会議出席はいよいよ活況を呈してきたが、そのほとんどが東欧的色彩の強い国際学連につながる動きであり、国際学連のわが国に対する働きかけの強化を物語っているが、西欧側の学生連合でも、わが国の学生に注目しだし、同系統を引く全米学生大会日米学生会議（全米学生協会主催）アジア学生会議（フイリッピン学生協会主催）国際学生新聞会議、国際学生セミナー（学生連合が直接かかわっている）等に代表を送ることができはじめて西欧圏の学生団体にもつながりを持つことが出来た。いままで学生連合がわが国に対しめだった呼びかけを行なっていなかったのは、わが国の学生運動が全学連一色にぬりつぶされていた感があり、国際学連の旗の下に結集しているとの考えからであったが、西欧的色彩を持つ団体も除々に勢力を拡大してきており、わが国の学生運動も、現在では全学連一色にぬりつぶすことができなくなってきたことであり、このことが西欧諸国の学生団体にもわかりだしたのが原因であろう。わが国の現状では統一的な全国的組織をもつ学生団体の結成は無理であり、やはり、国際学連に属する結集体と学生連合に属する結集体とに分かれて行くとみてよいであろう。

×　×　×

以上世界の青年学生組織の既要とわが国におけるそれらとのつながりを大略してみたが、これをみてもわが国における東西両陣営よりする働きかけが青年学生の間に今年は活発になってくる事であろう

学生連合、ユネスコの諮問団体に

学生連合連絡事務局はこのほどユネスコの諮問団体として認められることになった。ユネスコの諮問団体としての申込は、国際学連や世界民主青年連盟からも出されていたが、学生連合よりおそく申込んだため討議期間が短かすぎるとの理由で一九五六年度の会議まで持越されることになった。これにより今後ユネスコが学生を対象として活動する場合西欧的色彩をより一層加味されることが予想され、東西に分かれている青年学生組織の今後の行動とからみて注目すべきことである

友愛文化部案内

本会では会員相互の知的向上をはかり、リクリエーションをかねる意味で次のサークルを設けてありますので、新入会の方々の参加をお待ちしています。

サークルは（A）研究会サークルと（B）リクリエーションサークルの二つがあります。

A　研究会サークル

研究会サークルには次の三つがあります。

A、友愛と民主主義研究会　―本会の発足とともにもうけられたもので、カレルギーの『自由と人生』（鳩山一郎訳）をテキストにしています。講師には日本大学百々研究室深津栄一氏（国際法）が担当しています（毎月一回開催）

B、自衛と憲法研究会　―いまさらくどくどしく述べるまでもありません。われわれの自衛とわれわれの憲法について研究するために設けられています。講師としてその道の権威ある方にお願いしています。（隔月一回開催）

C、農業問題研究会　―わが国の農家人口は全人口の40％を占めています。その上農業問題はきわめて複雑多岐でありこれを適確に把握することはわが国の政治を理解する上に必要なことでしょう。既に元農林政務次官平野三郎氏、農業朝日編集長宗友重孝氏、日本経済研究所主任研究員一瀬正幸氏。NHK農事課田沼修氏などから有益な講義を受けています。（毎月一回開催）

.B　リクリエーションサークル

これには次の六つがあります。

D、山友会　―山登り・ハイキングを趣味とする人達の集まりでアルピニスト級から散歩クラスまで。とにかく歩くことをいとわぬ人達が集まっています。伊豆一周の旅、武蔵野散歩などを行いました。（責任者、増田裕二）

E、合唱団　―毎週金曜日に練習しています。現在男女ともで三〇人。特に女性の参加を歓迎するよし。会費毎月五十円。（責任者・早川忠光）

F、俳句会　―毎月十五日までに友愛俳壇に官製はがきで投稿して下さい。一人一回五句以内。入選作は翌月の機関紙に掲載。選者斎藤宵路、内山一草堂。添削希望者は同じく友愛俳壇まで返信料封筒同封のこと。句会は隔月一回開催（責任者・青沼東舟）

G、文藝部　―同人誌『逆流』を発刊しています。毎月二十五日が原稿締切。未発表文芸作品の投稿歓迎。但し掲載は厳選します。同人十一名によって運営、同人加盟は全同人の推せんによります。（責任者・中村勇二）

H、弁論部　―毎月二回の練習を行っています。優秀者は適時地方遊説に派遣します。顧問に中日弁論会理事長河村友夫氏をお願いしています。（責任者・折戸博司）

I、スキー部　―毎冬妙高つばめ温泉に合宿します。初心者歓迎（責任者・宮沢一英・二十六年度全日本学生選手権保持者）

申込方法　―ABともに入会と同時にそれぞれのサークル宛申込まれるのが便利です。申込先はすべて本会事務局あてのこと。受付と同時に責任者より詳細を連絡いたします。申込はハガキで職業、年令、経験等詳しく記入のこと。

友愛青年同志会文化部

写真上は世光寮における友愛合唱団有志の合唱、下は学生サナトリウムに贈つた時計、中央時計を持つは学生サナトリユウム建設委員会北沢事務局長その左は小沢委員

友愛の歳末慰問行

保護施設、引揚者寮等へ

東京在住会員有志による、扶け合い運動は、昨年十二月十五日より二十五日まで続けられたが、同十八日には、川崎市稲田登戸にある学生サナトリユウムを訪ね、奉仕作業を行うと共に、醵金の一部をさいて購入した時計を贈呈した。また翌十九日には、品川の引揚者一時宿泊所の常盤寮を訪問慰問品を贈り、最近中国各地より引揚てきた人々と懇談、今後の援助を約した。なお当日の懇談会において話し合つた要旨は二面に掲載されている。

同二十六日には、児童保護施設の一つである港区麻布の世光寮で慰問演芸会を開き子供達と共に楽しい半日をすごした。当日は紙芝居のおじさんとして有名な宮田平さんも、多忙な時間をさいてかけつけ、その名演ぶりに子供達をみりようした。友愛合唱団有志も子供達にジングルベル等の歌をおしえ、全員合唱を最後に来年の訪問を約して終つた。

岐阜・三重両縣に支部

各地の動きトミに活發

昨秋来全国各地に活発な支部結成気運がみなぎつているが、この程本部にもたらされた情報によると、岐阜県関市及び三重県津市に近く支部結成準備委員会が設置され今月末と三月にそれぞれの支部が誕生することになつた。

今月三十日に結成

◇……岐阜縣関市で

昨年九月以来、日を追う毎に動きが活発化して来た岐阜県中濃地方では、奥田組織部長の来訪をえて関市花園町河府君宅に河村友夫君大崎晃君、小川利明君、河村成勝君等責任者が集六、七日の二日間にわたつて慎重討議の結果、来る一月三十日に関市公民館において支部成大会を開催、ひきつづいて結成記念弁論大会を行うことになつたしたがつて具体的な対策をたてるため、支部結成準備委員会を十日にひらき早速活動に移ることになつた。

岐阜県中濃地方とは傘下に関市美濃市、武儀郡を収め支部結成のあかつきは現在会員のいる大垣市、中津川市、揖斐町、飛騨地方と呼応して全県的な組織に発展することが期待されているなお名称を岐阜県中濃支部と称し会員は現在約六十名で、大会までにはまだ期間があるので更に増加が予定されている。準備委員長を始めその他の役員は十日の第一回準備委員会で選出されるが委員長には河村成勝君、（関兼次刀物取締役）が予定されている。

弁論大会に鳩山会長杯

関支部結成記念

中濃支部結成を記念して同じく三十日関市公民館において〃鳩山会長杯争奪青年弁論大会〃をひらくことになつた。岐阜県は弁論王国としてひびいているので、弁論熱は極めて盛んであり現下の政情の最中における〃青年の雄叫けび〃は支部結成を記念するのにもつともふさわしいものとして期待されている。

要項

とき 一月三十日（日）午前九時
ところ 関市公民館
演題 自由（七分以内）
申込先 関市本町 万年堂宛
締切 一月二十三日必着の事
審査員 河村友夫氏（中日弁論理事長）他九名
賞品 鳩山会長杯、[illegible]、他
後援 岐阜タイムス [illegible]

津（三重縣）では三月に

……近く準備委発足

三重県津地区では、先般の会合で支部結成を本年三月に行うことを決め、全会員がそれぞれ各拠点を分担し、それを強化しつつ諸準備を進めているが、去る一月二日本部より北川情宣部長を迎え、本年度初の会合を開いた。当日は各会員がそれぞれの準備状況を報告、それを中心に今後の方針を討議したが、特に支部結成について本部側の意向が北川情宣部長より述べられ、本会地方支部の在り方について種々意見の交換がなされた。

この結果、津地区自体の組織拡充強化は勿論であるが、全国単一組織である本会にあつては、本部との結び付きを一層強化し統一ある運動を展開して行くことになつたなお同地区は近く正式に支部結成準備委員会を設け、広範なる呼びかけを行う。

稲田君ら上京

関西準備委拡大打合せで

関西支連結成準備会事務局では先に地方機関紙として〃関西友愛〃発刊の計画を進めていたが、諸準備の都合で予定より一カ月おくれ本年一月中に発刊することになつたまた同事務局の稲田昌計君他一名が去る一月七日上京、本部を訪ね渡辺事務局長、海野経理部長と懇談、機関紙発刊、関西各地区との連絡、賛助会員獲得問題等について打合せを行なつた。なお同君等は九日帰阪、同準備会の土屋幹事等と協議の上近く大準備会を開くことになつている。

会員外にも呼かけ

○……合唱団充実計画

友愛合唱団では、本年度練習再開を前にして有志が集まり、合唱団の充実を中心に話し合つたが、団員構成が学生多数の現状にかんがみ一般会員の入団を進め勤労者でも練習が続けて行けるような方法を充分考慮することになつた。なお現在でも練習時間は夜間を選び出来るだけ多くの人々の参加を求めているが、より時間的な問題を考えたいといつている。

また、本年度からは会員以外の人々にも強く呼びかけどしどし練習に参加するようにすすめ、本会文化活動の一環としての役割をはたすことになつた。

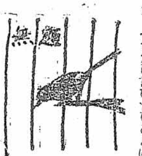
左右合同に論戦展開か

民社青同大会

〃青学懇〃の有力メンバーである日本民主社会主義青年同盟では来る一月十七日午前十時より第二回定期大会を開催する

この大会は民社青同として二回目のもので昨年一月十六日同盟結成以来丁度一周年にあたるわけであるが十八日には左右両派社会党の臨時党大会が行われるので、右社の青年組織である同同盟が左右両社合同に対してその態度を決定するものとみられるため相当活発な議論が展開されるものと注目される。

無題

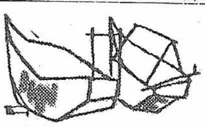


◇政治の貧困からくる社会動乱がひどく、とくに年末には経済的に貧して一家心中をしたり、捨子をする人達もあつた昭和二十九年も終り、色々な意味で希望に燃える年を迎えた。鳩山内閣が成立しいわゆる話し合ひ時代として、世間はホツとした気色を見せたようだ。老いて益々さかん、それは養命酒か何かの宣伝に出てくるアインシユタインをすぐ思い出させるが、鳩山会長実にそれ？でなかなかの張り切り方である。今こそ友愛精神を基調とする民主政治を行いその政策を大胆に実行し、一家心中や捨子がなくなるような社会にしてもらいたいものだ。ただ、一つだけ言いたいことは、自由諸国ともいまのまま、中ソとも『仲よくしたい』の国際外交だが、安易な考えでは、日本はどんでもないバカを見るということだ。

◇ますます人口が増える。確かに日本は何処へ行つても人間がウヨウヨしている。だが政治家は一向にこの問題に目を向け、耳を傾けてくれない。法律と宗教と道徳とは互に喰い違う場合も時と処によつてあるから今もつて昔変らずにある堕胎罪の項に関しては何ともいえないが、何れにしても人口問題は政治の重大問題である。道徳も法律も人あつて社会あつてのこと。まず人口問題を考え、住みよい健全な社会を作つてもらいたい。

（天然孤児）

解説



モスクワからの呼びかけ！

▲日本と共産圏諸国との国交同復についてはしばしば言われていたところであるが、鳩山内閣実現によつていよいよ、現実的な問題として、時代の脚光を浴びてきた。鳩山首相は『中共、ソ連に対し国際関係の平常化を望むのは当然であり、むしろ国交の正常化をはかる為にも交通貿易を促進したい』と述べ共産圏諸国との戦争状態終結をもたらすため積極的外交政策をとることを明らかにした。また重光外相も、新政府の外交方針として、首相とは多少異なり一定の留保条項をつけてはいるが『お互が受けいれ得る諸条件にもとずいてソ連と正常関係を同復する用意がある』と公式に声明したのである。

▲このような新内閣の外交方針に対する反響は、国内、国外ともにかなり大きく、とくに十二月十六日のモスクワ放送は、重光外相の声明に関連して行なわれた、モロトフ外相の声明を放送して来た、米国をはじめとした西欧諸国の反響も決して小さくわなかつたが、当の相手国であるソ連が、間髪をいれず外相声明を発表したことは当然であつたかもしれないが、ソ連のいわゆる平和攻勢積極化が云われているおりだけに、意義深いものがあろう。

▲モロトフ外相の声明は『日ソ両国関係の正常化はひとり両国関係の利益に合致するばかりでなく、極東における平和強化と国際緊張の緩和に関心をいだく各国の利益と、ともなる』と述べソ連も日本がそのような措置を望むならば、同じような措置を講ずる用意があると言明しているのである。またこの声明の中で注目されるのは、日本との国交同復についてのソ連の立場を次のように明らかにしている。すなわち『日本との関係正常化についてのソヴエト政府の立場は、一九五四年十二月十二日発表された日本との関係についての中ソ両国政府の共同宣言に示してみる』とし中ソ対日共同宣言を重視しているのである。

▲いずれにしろモロトフ外相の声明は、重光外相の声明に対し積極的態度をとると答えたものであり今後の両国の出方が注目されるところである。しかし問題は、具体的にはどのような事柄から話しの糸口をみつけるかであり、糸口が若しみつかつたにしろ、いつ話し合いをするかである。モロトフ外相声明があつた後、重光外相は、『サンフランシスコ平和条約を否定したソ連が今回のような措置に出たのは一歩前進であるが、その真意がよくわからないので将来の発展を注視する』と言つており、正常な国交同復には相当な日時をついやさなくてはならないとみてまちがいないであろう。

▲このように日ソ両国の国交同復に対する態度をお互が公表した以上、いずれは国交の調整へ具体的外交政策も進んでゆくことであろう、通商貿易や文化交流等による既成事実もつみかさなつてくることも予想され日本と共産圏諸国との間にまつわる諸問題の解決もそう将来でわないであろう（辺人）

北海道・大阪等遠隔地からも

冬期講習会開始

冬期講習会は既報の通り一月十日より、新潟県妙高々原つばめ温泉で開催されたが、今回の講習会には北海道、大阪をはじめ遠隔地よりの参加者がめだち、その成果が期待される。東京方面よりの参加者も九日午後十一時上野発直江津行にて出発、田口で地方よりの参加者と合流会場に向う。なお田口には地元宮沢君等会員有志が出迎え、参加者に加わつて予定の四日間をすごすことになつている。

逆流三号原稿募集

作品内容
創作・詩・随筆・評論・小品
（枚数編数制限なし）

締切り
二月末日

送り先
東京都文京区音羽町七の一〇
友愛文芸部逆流係

発行予定は三月中
原稿は原則的に返却いたしません

謹賀新年

土木建築
設計施工
田中土建工業株式会社
取締役社長 田中秀雄
東京都千代田区飯田町二丁目八番地
電話九段（33）六九五三・七七三五 八六一六

建築設計施工
松井建設株式会社
取締役社長 松井角平
東京都港区芝田村町二〇番地
電話（43）七一三一～五

土木建築設計施工
株式会社 熊谷組
取締役社長 熊谷太三郎
本社 福井市豊島上町一番地
電話 福井四八〇〇～二番
営業所 東京都新宿区築土八幡町二三番地
電話 九段（33）五〇一～五番